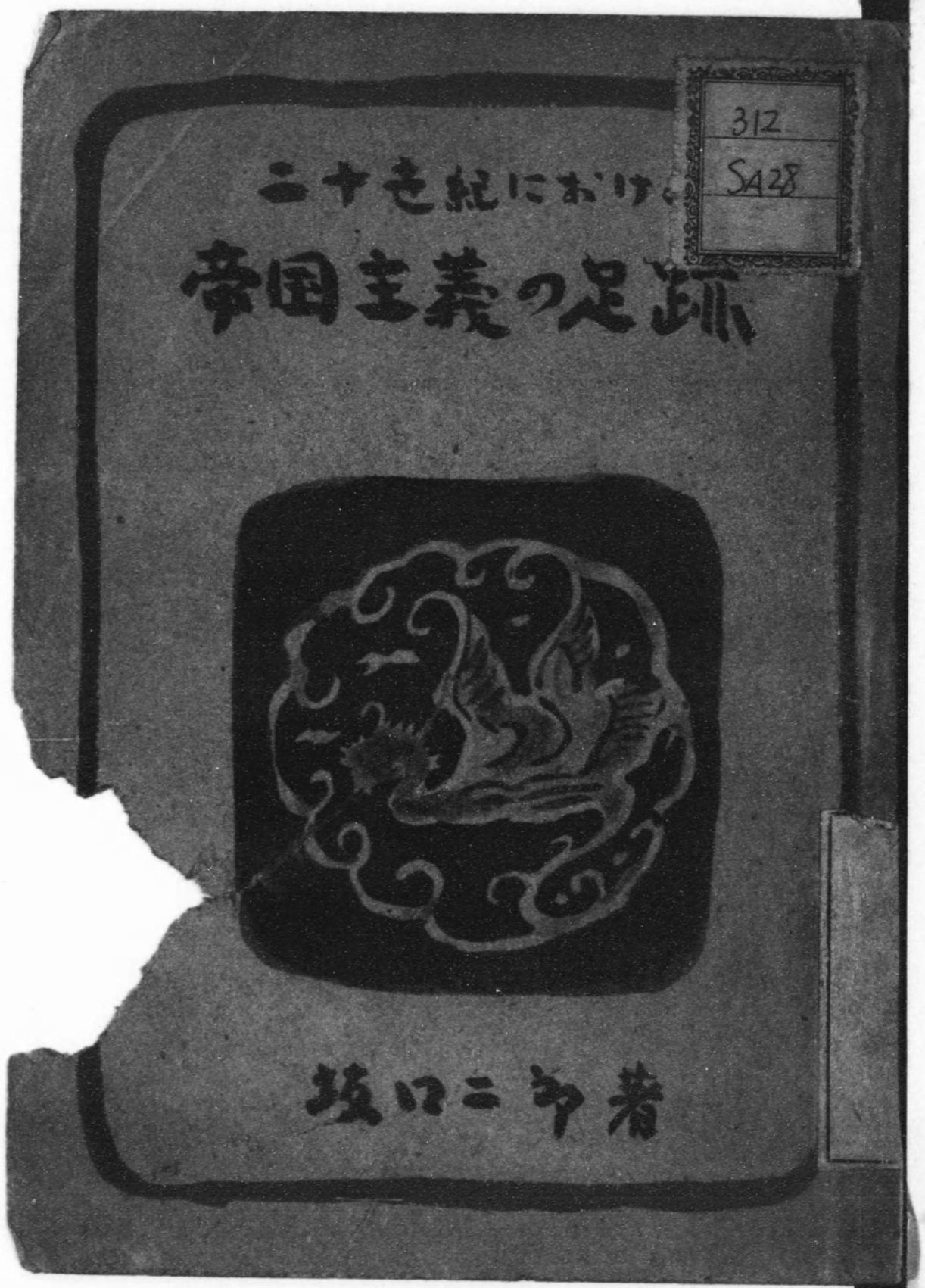

312
Sa28

0004474000

0004474-000

３１２－Ｓａ２８ウ

二十世紀に於ける帝国主義の足跡

坂口二郎・著

叡智社

昭和２３

ABC

312
SA28

二十世紀における

帝国主義の足跡

坂口二郎著

312
Sa28

坂口二郎著

二十世紀に於ける帝國主義の足跡

叡智社

序

二十世紀は帝國主義の時代であり、軍備擴張、經濟發展の時代である。若しその徑路を詳述するならば、重商主義を發足として國民主義への展開となり、遂に帝國主義への結成と爲つたとも謂ふべきであらう。外交內政悉く時代に從つて特徵を發揮し、要するに資本主義發達の跡を示すに外ならない。自然一面また勞資葛藤の歷史と解すべきであり、帝國主義興隆即ち資本主義全盛の經緯である。政治的解決を求むる者經濟的に亦不問であり得ない所以である。

昭和廿三年一月

筑後河畔高良山麓にて

著者識す

國立圖書館
昭和 23.4.10
購入

著者略歷

明治三十八年七月早稻田大學文學部卒業、同年讀賣新聞社入社、
同四十年退社一時歸鄉、同四十一年萬朝報社入社、大正九年退社
同年渡英、同十年歐州大陸各國視察、同十一年歸朝、同年中央新
聞社入社、同十三年退社、爾來昭和二十年迄西日本新聞社客員

目次

一、重商主義から出發……一
二、帝國主義下の勞働者……一〇
三、ドイツの帝國主義……二二
四、イタリー建國の餘勢……三四
五、ロシアの野心……四七
六、フランスの復興……六〇
七、イギリスの繁榮……七五
八、日本の膨脹……八八

一、重商主義から發足

近代ヨーロッパの歴史及びその戰爭は、容易に且つ自然にこれを三期に分つことが出來る。重商主義、國民主義と帝國主義との各時代がそれである。重商時代に在つては西ヨーロッパ諸國何れも他國における通商市場の獨占を得ることに努力し、從つて長いこと大小戰爭の時代を展開し、軍事活動を必要とするので、貿易の均衡、航海法案乃至內地製品の助成と謂ふが如き政策において、政治上の表現を適用した。即ち貿易の均衡と謂ふのは輸出國に向つて純金銀をもたらす輸入以上、輸出の超過に依つて、他と交通する國民の富の評價であり、航海法案と謂ふのはイギリスと他國との間に在つて、イギリスへ若くはイギリス植民地への物資を輸送する船舶に對し、イギリス船舶の獨占を得せしめん爲めの企畫であり、內地製品の助成とは只管他國製品を壓倒せしめて、貿易上の條件を有利ならしめんとする方策に外ならない。しかもこれ等各政策の勝利は生產の發展に對して、奬勵上の、又必要上の資本を設定し、自然切離し難く、そして紛爭し易き產業上の資本家階級と近代生產階級とを發生した。

資本主義の發達と共に、國民は彼等をして同時に經濟的に統一せしむべく地理的境界を完成せん

と努力する。即ち興隆する製造業者を發達せしむる爲めに、彼等は政治上の力を求め、封建制度と重商主義とが造り出した生産、貿易の古い防壁を一掃した。地球上の相貌を一變すべく爾く快速に完全にそれを完うしたのは、大なる生産力を解放して、それを自由ならしめた産業主義の政治であつた。何人も事件に直面すれば賢明であり、生産力解放の爲めの闘爭は大部分無意識ながら、事實ヨーロッパを刺戟し、又十九世紀中、稀れならず、彼等を戰爭に驅り立てた國民性に對する熱烈な訴及を意味する。

重商主義者統治の下に西ヨーロッパ諸國の國内産業の變化に對して、主動的な、そして必要な手段―帝國主義が用意せられ、その國内發展の爲めの政策が轉じて、國際關係上の新時代に入つて居るかの如き風をして居た。しかも資本主義の發達は少數資本家の一層急激な蓄積から促進せられ、殊に機械の不斷な改良と生産方法の革新とに依つて助援せられた。これ等變革の價値はその勞働救濟の程度如何に存ずるのであつて、生きた勞働力は機械の爲めに取つて代はられ、肉あり血ある人間は『鐵人』に依つて代はられた。即ち勞働者群は時々その仕事から放り出されて、人員過剰と爲り仕事に必要な以上に人が殖え、勢ひ失業者群の出現は使用者をして眞の生活標準まで從業勞働者の賃金を引下ぐる上に最も有力な事實の一と爲つた。同時に勞働の生産は跳躍的に增進し、その間群衆の購買力は減少し、彼等の生産する商品の量は彌が上に增加しながら、それを消耗する能力は

唯低下した。

資本主義は不合理に若くは逆説的に、常に富の生産に對して、增進する力の檢眼である。又群衆の間における欠乏と慘情との擴大を反映する。尙實際上生産せらるゝ富が最も豐富な場合、勞働者は雇用を止めらるゝ。如何となれば資本家は既に利する爲めに必要以上の生産を得るからである。失業と同時に賃金不拂ひが起る。市場は勞働者の賃金消費如何を代表し、延いて資本主義の大問題を深甚ならしむる。過剰生産の處理如何の問題がそれである。昔この問題は後進國民への品物の賣却又は交換に依つて解決せられ、過剰物品が即時使用せらるゝか、それとも容易に消費せらるゝものである限り、特に解決輕易であつた。そしてこゝにも變化があり、萬事餘りに急速であつた。

唯一の例證は一段の經過を示すのに十分である。即ち幸福な時代に在つて、イギリスが世界の職場であつた際、他の外國人中においてもドイツへは綿織物を供給した。しかしドイツがその綿織物を輸入する代はり同じイギリスから綿織物の機械を輸入する時が來た。そしてこの機械を以てドイツは國内市場に綿織物を供給するやうに、その製品を增進した。自然イギリスは忽ち綿織物の市場を失ひ、その償ひとして機械輸出の新市場を發見した。しかし事態はそれのみでは止まなかつた。ドイツは自から石炭も有し、鐵も持つて居る。或綿織機械のイギリス人專門家から教授を受くるとドイツはイギリスの機械と同樣のものを造つた。そして事實イギリスは最早や綿織物を輸出出來ぬ

のみか、綿織機械さへも輸出出來ず、唯僅かに專門家を輸出するに止まり、それも多くはなく、僅かな時日の間のみであつた。しかもドイツは自からその機械を製造するに止まらず、自用の綿織物を供給し、世界市場においてイギリス製品と競爭する始末となつた。この例は日本に在つても同樣の經過が示され、一層顯著な類例がインドにおいて示された。

資本主義は常に顧客を競爭者に變へて居る。そして競爭者が增進すると共に顧客は減少し、競爭は從つて深刻痛切と爲る。のみならず競爭は生產を促進し、何れの先進國においても機械そのものゝ革命を促がす、鐵鋼製作も現に他との競爭に導かれて居り、鐵鋼機械の製作は綿織物と異り、資本主義發展の後期の、一層又進步した段階を代表し、右作業自體の問題も惹起することが早い。即ち如何に過剩製品を處理するかゞ問題であり、問題の內容も異り、又困難でもある。前記綿織物の場合の如きは廉價と云ふことが、總ての城壁を叩き落す武器であり、一旦賣り込んで了へば處分は乃ちそれまでゞ、現物交換も亦同じである。しかし鐵鋼製品の場合はそれと甚だ相違がある。第一これ等の物品は使用せらるゝこと爾く急速でなく、賣買も勿論手ツ取り早く取極めらるゝものでない。そして製品が急に使用せられない場合、利益上から言つても問題は重大である。しかしそれ以上に遙かに重大な根本問題は後進國に對し機械の据付並に使用の爲め、專門家を送らねばならぬことである。電報線を引かなければならない、鐵道も敷かなければならない、港灣も築造しなければ

ならない。專門家の外、代理人、事務員までも送らなければならない。事實これ等製品の爲めの市場開拓及び供給は、資本家制度そのものの創造と多くも少くもない。帝國主義者のボートが地球の果てまで文明を運ぶと謂ふのはこの爲めである。しかし商品は報償的返報の誘因動機なしに取引きせらるゝことはない。後進人種又は支配者は機械、鐵道若くは電報の價値に就いて、種々口說かれねばならぬ。そして問題は甚々熱心で、又常に先方が丁寧な裡にも拒絕の餘地ないほどの熱心を表する。殊に支配者は建造の權利を讓與し、又支出値費から利益提供を保證する契約捺印に至るまで贈賄又は脅迫を免がれない。右保證上の最も興味ある一例はキロメーター・ガランテイとして知らるゝことに依つて立證せらるゝ。

著述家エッチ・シー・ウツヅは戰爭の搖藍と題する著書を公にして、次ぎの如き說明を與へた。

同時に（一、八八八年）トルコは始めて鐵道に對するキロメーター保證を用意する考へを首肯した。この保證は政府が交通開始の鐵路一キロメーターに付、年概算として一定額を當該鐵道會社との間に契約することであつた。そしてこの一定額は會社が政府への過剩として讓渡するに先きだち、オツトマン共和國債として右會社に手渡された。即ちスクタリ・イスミツド地區に在つては一キロメーターに付保證金一萬三百フラン、イスミツド・アンゴラ地區に在つては同上一萬五千フランであつた。

以上二地區以外に在つては土地、鑛山の重要な讓與が、保證として行はれ、尙又これ等の讓與を得る爲めに土着人口以上の兵力を得られた。當時スエズの東部には工場法もなく、勞働は比較的無能視せられながらも、極めて廉價であり、廣地域に亘つて白人頭領に依つて雇用せられた。

國內における群衆の私用、眞の生存基準まで群衆間における生活標準の低下に依つて、國內市場の破壞——斯くの如きは通例國外における有利な地域を欲求する必然の原因であり、それ等の地域を求むるところから、欲求者自身資本家國民と爲り、或は少くとも資本家國民たるべき道を開設した。しかも後進國家は財政家に對して種々の申出でを爲し、或は利用せられ得べき新地域を申出た。同時にその勢力範圍に在る生活程度の低い勞働者の群衆若くは自から組織もなく、政府から何等防衛をも保護をも與へられない勞働者を申し込むと、勢ひ斯かる境遇の下における土着人の生産は、先進國家の老巧な勞働者と競爭して多く成功し、失業と悲慘な生活と一層永く、又擴大な原因とも爲つた。

この經路の意義及び重要味は何か。畢竟新競爭者の發生に對して、その對策を用意した先進國家の勞働者は再び、而も一層恐るべき、即ち彼等が當初の、直接の利用に依るところのより、一層甚だしき苦痛に逢着した始末である。この勢力と計畫との新地域開拓、後進國に對する政治上の支配が、近代帝國主義の本質を構成する。その動機は先づ經濟であり、經濟目的達成の爲めに手段と

して原住民國家の政治生活に立ち入るので、單なる特殊資本家國家の觀點からすれば、問題は上述以外に出でない。或者は單に理窟に訴ふる以上、何ものかを要するかも知れない。しかし事實上、資本家國家なるものは唯一ではなく、何れも等しく『異教徒』に對して資本主義の利益を施さんことを要し、何れも他より有利有益な仕事を成し得るものと信ずる。その爲めに帝國主義國民は他の先進國民と反對に自己の要求を强化する手段を有して居らねばならない。又一層嚴密な提供を試むる方法を有して居らなければならない。自然この目的の爲めに大變な軍備を要求する——ドレッドノートンや、巨砲や飛行機やタンクや毒瓦斯等々がそれである。斯くてわれ等の軍備における近代の競爭は、剩餘資本に對する計畫新分野への要求に基づくものであり、近代軍備はその結果である。しかもその結果は他の或結果の結果である。

新產業は新利益を生みつゝ興隆する。これ等は軍備の增大に對する發案と支援とを與ふる新政治力の興起を促がし、新政治力は輿論を生ぜしむべく新聞及び凡有ゆる機關を利用する。實に軍備產業は最も健實に、その利益を擁護し、且これを支援する政治勢力の發生を促がす經濟勢力の最も光飾ある事例の一を代表する。尙又われ等は仕事上、資本家の利益を强化する勞働者の態度如何を不問に付することを放置してはならない。一、八八四年造船業、機械貿易の大不況期中、ウオールトン・ニューボールドがわれ等に告げた事がある。即ち失業救濟の不吉な形式が是れまで海軍省經費

の形式に依り政府の規則的干渉の下に行はれたと云ふのである。軍備の發生、擴張に依つて生する勞働階級の部分的利益は、斯くて資本主義の續く間、看過若くは輕視すべきでない。確かに直接間接大海軍の保持、帝國主義政策の維持上、勞働階級の利害如何を强調する資本家に在つて、それを忘却せらるゝことはない。そしてこの意味において新聞はその使命をもたらさるゝのであつて、それ等の超愛國家、肘掛椅子の軍人等の手に成る表面何等利害相關しない書きものが、彼等の利益と愛國主義と同一であり、決定的に興味を有する人々に依て注目せらるゝ。近代新聞それ自體が大なる產業であり、その廣告欄を通じて他の多くの產業と關連する。各勞働新聞の經驗は何が近代新聞發行上の大なる經濟的企圖であるかを示現する。この種の新聞問題の他の形相も考察せられなければならない。われ等の愛國的新聞における主戰主義的記述及び命令は、他國の帝國主義者に對する立派な聖書であり、こゝで記述せらるゝや否や、他國の帝國主義者への主張として、又名分として利用せらるゝ。そしてそれが再び國內における感情乃至政策上に反撥する。大戰爭（前回）勃發前における英獨關係の歷史は、この作用反作用の無數な事例を供するのである。

國民と國民との關係は或時は親善、或時は敵視し、時の利益と必要に應じて相違する間に復た新たな關係を生し、領事、外交官の關係を密にして、彼此の利益が同じく彼等自體の存續に努むる如く、現存の秩序を保持すべく努力せしむる。われ等はこの事情に鑑みて、注意深く國際關係の問題

が普通の人々に取つて、理解すべく餘りに深く又複雜であるとの觀念を育成し來つた。その爲めに又社會の利益上、これ等の問題が秘密に付せられ、これが理解を少數者の變形改造に委した。外交方面における斯かる觀點は好都合に理智的である。しかし同時に又資本家階級の一般的要求に合致する。政黨、內閣、政府は何れも漠然晏然とはして居らない。彼等は何れも廣い經濟的利益に安定し、且それを代表する。彼等の政策はこれ等經濟的必要を健實にし、階級的利益を圍むべく、それに相應した形狀を整ふる。その爲め內閣又は內閣の或閣僚が外國との條約問題に關係すると、秘密又は公開の如何を問はず、既に多少とも決定して居る政策と一致せしむる。政治家は斯かる重要な問題に對しては、決して自由手腕を與へられない——內閣背後の列國が好むところを好むものと信賴せられない限りは、必ずさうである。若し彼等にして自家所屬の階級協會であると云ふのを理由に政治上の役所に出頭したならば、その限度まで彼等の政策は前以て決定せられて居る。若し彼等が金錢と投資の爲めに政界に居るものとすれば、彼等は等しく特殊な或政策の機關であり——政策は彼等がその運命を共にする爲めに、身を投じた政黨の經濟的利益と一致するやう形造せられて居る。

それにも拘らず、秘密に對する理由はわれ等に取つて重要であり、近代條約の本質は豫ねて秘密を保たれて居るほどに經濟的性質のものであり、虛構の場合はその名義も軍團である。人或は最も

成功した外交さへも虚言を好きな爲めの虚言のみではないと敢て確證するかも知れない。――彼等は常にある通り他を輕蔑し、又便宜的に忘れつぼく爲ることもある。しかし虚言を吐くことが合理的に必要なことがある。秘密外交が後進國民の利用上、投げかくるヴェールは賃金制度が國内群衆の經濟的利用上擴大せらるゝヴェールの複本である。そして利用形式は双方とも秘密に付されなければならぬ。然うでなければ災難が資本主義に振りかゝる！

こゝにおいて帝國主義特にその經濟的基礎を明瞭に諒解することは、群衆に取つて重要且價値あるものである。近代帝國主義の動機は國内群衆の利用であり、この後進國における剰余資本即ち群衆の所有でなく剰余せる資本の爲めに計畫上有利な地域を發見する爲めの指導を與ふることが必要である。食糧、燃料、原料資材の源泉を獲得すること、そして支配上の戰線と通商ルートを獲得することが必要である。一層再組織の根抵に群衆利用の目的がある。即ちその利用こそは帝國主義の負擔から人民の問題及び救助の解決を得るのである。

二、帝國主義下の勞働者

近代資本主義は産業革命と共に、その端緒を生じ、産業上大衆多大の進歩のみならず、生産資本の處置に就いて土地を有せない多數勞働者を生ぜしむるが如き農業上の變化をもたらした。從つて革命は生産勞力の倍增、低賃金、勞働時間の延長を餘儀なくするので、大衆は彼等の勞働に依る生産品を買求し、又消費すること不可能と爲り、超過物資の市場を發見することが漸次危急な問題と爲つた。

この市場發見の爲めの競爭において、安價と云ふことが成功の唯一武器であり、この安價こそは唯勞働者生産の手段若くは直接烈しい踏査研究に俟つので、然らざれば兩者兼用しなければ製品生産品の安價および市場の獲得を期することは出來ない。しかしこゝに障礙がある。今日成功の確實な方法が明日は忽ち難關となり、快速なる生産が何とか處理をしなければならぬ。生産の過剰を告ぐるからである。資本主義は、實に比較にもならない、夢想も出來ないほど技術的進歩を示し、しかもその進歩が續く間、市場發見の問題が層一層尖鋭化し、汽車汽船があつても尙間に合はない。そして生産超過が曾て矛盾の形で表現された資本主義の定期的病弊と爲つた。工場又は職場の單一な統制を世人は組織と能率とにおいて、孰れも非常な程度に達して居ることを見た筈であり、世界産業を通じて市場と需要との關係に就いて、生産成績に對する自覺的規律全く欠如たる爲め、浪費的混亂を生ずる。

生産過剰の弊害は他の病弊の結果であり、資本主義の立場から最も重要なことは、成品の永續的低廉に依る利益の引下げである。物價は明かにその値を保持し、『正しく合理的』に利益を維持せられなければならない。それ故、われ等の物價運動も連合的であるべきことが判明する。（甲）製品が不規則に市場に投げ込まれ、又制限なく商品を支給せらるゝ限り、その値を維持すること不可能であり、（乙）市價および利益を維持する手段として、生産の結果を制限することも考へらるゝ。即ちプールを結成し、又統制を行ふことも一方法であり、これ等の設定は個々に均一を保持することや支配すること等可能であるが、しかしそれを統制する資本高と一致して、企業組合で決定する全産業に對する各個の分擔があるので……これは單だ完全な信頼への産業進展の一里塚である。信用は良心的意見の一致と現存商會の組織とによつて形成せられ得べく、弱小なものは（即ち小資本家は）殘忍な競爭の爲めに絶對絶命に陥いるか、或は前記の方法に倚頼せざるを得ない。

信頼を得る方法如何を問はず、成果は最善の價値と最高の利得を獲得する爲めに組織せられて居る。そして殆ど何れの場合においても結果の制限を意味する。これ等の事情において新たな、そして一層困難な、六ケ數い機械と手段とが勇氣を鈍らせる、少くとも元氣づけるやうなことがない。

今日われ等は世界トラストが進展中にあることを看取する。猶ほカルテルが各その組合商會で生産する結果の割前を決定する如くである。それと同じく國際トラストは各國に對する成果を決し、

更らに一國又は數ケ國へ送り付けうるべき成果を決定する。この世界資源の分送と各國資本家の結合とが、完全な調和を期待せらるゝ問題ではない。それが現狀であり、發達の過程である。しかし消極方面で早晩種々の國民資本家を打つて單一の國際トラストを形造する。即ち初めは種々の個別的産業の中に、後には遂に全産業を包含するトラストを形造する。つまり單一産業のカルテル又はトラスト形成が國際カルテルおよび國際トラストへの道を拓いたやうなもので、イギリス産業同盟として知らるゝ、大組織が完全な、總てを抱擁する資本の國際組織への傾向を表明する。

その初期から近代の傾向まで快速な資本主義發達の評論に就て、二つの内部的形相が最も重要である。しかもその重要味は國家および國際關係の經濟的生活に就いて、相互依存の觀念を掴み得る人は容易に理解し得るであらう。

初期の資本主義は大なる矛盾即ち生産單位の内に異常な、有能な資財組織を形成し、途方もなく浪費的政府的な混亂裡にそれを實現する。近代資本主義は生産せらるべき全統計を決定し、種々の生産單位の間にこの總計を配分して、右矛盾を解決せんと努むる。殊に初期の資本主義は競爭的なのに對して、近代資本主義は獨占を目論む。

しかも今やこの二樣の形相が國家の國際關係において、一致する事を發見する。恰も初期の資本主義において個人的な組織が一般的無政府主義と並行するやうに、兵力と國家の資財とを背景とす

る國民資本主義の意識的組織が世界資本主義の共同に就いて、これを生硬未熟のまゝ捕捉する。要するに國家的組織と國際的組織との並行である。同時に世界戰爭がその結果において意識的に組織せられた國民の帝國主義と世界帝國主義の無政府的衝突を調和せんとする試みの有力な衝動を與へたことを記述せられなければならない。恐らくその最も善い例はヨーロッパ借欵國の提案である。

一、九二二年の初めロンドンにおける會合において、國際新借欵が上程せられた。同借欵はその實銀行聯盟で、同聯盟に加盟せる產業上の大立物の活動に對して、クレヂットを設定しようと云ふのであつた。そして恐らく資財を設定し、經理の順序を作る爲めに時間を要するであらうが、一旦決定となればヨーロッパの運命を決する大事實と爲ることも容易であつた。

負債の支拂、保證等に關するロシアへの命令はその發揮する政治上の勢力を表示すべく、轉じて軍事的戰線の問題を含むであらう。しかも軍事的戰線の問題は疑ひもなく鐵道特にロシアと境を接する國において、政策上の表現と見る。更らに右事情は直接群衆に影響し、彼等の生活標準にも影響する立法上の性質を決定する。

しかし問題の進展はヨーロッパに在つて停止し難く、究極の結果は少數專制者の利益の爲めに、全世界の物質と勞働資財の意識的組織による世界借欵の形造であらう。資本主義最後の舞臺に關するこの見解がわれ等第二の點へわれ等をもたらすのであつて、早期の競爭的資本主義が生產を進め

革命技術を進めた。機械の發達が中絕することなく、天然に對する人間の支配がこれ亦中絕することなく發達した時期であつた。殊にその總てが低廉であつたのである。近代の獨占資本主義は生產を制限し、何が資本主義の下に在つて技術上進步の大動力であるかを見せない。即ち競爭がそれであることを秘密に付する。そしてこの大に相違ある資本主義の兩面が大に相違ある國際政治において、各自その表現を示す。

早期の競爭主義資本主義は國際上の分野において早期の自由政策を發生せしめ、自由競爭の政策は他國の市場に配給を行ふ。これに對し現代の獨占資本主義は近代帝國主義を發生せしめ、帝國主義それ自から本質的に獨占政策である。勢ひ帝國主義が熟考的、意識的に帝國主義になればなる程一層決定的にその獨占的特徵を發揮する。資本主義のこの後の段階も尙唯進程の過渡期にあるもので今日に在つては國際的獨占を企圖する爲めに、不可避な二樣の行動線に副つて行はれて居る。即ち借欵に依る協定を試みることがその一、他の一は經濟的軍事的實力鬪爭に依るものであり、現在世界の形勢は以上の試みを表明するものと解せなければならない。われ等は恐らく地位、政策——四大國即ちロシアとイギリスとフランスおよび日本の憧憬に對する簡單な試驗によつて、その最も善しとするところを措置し得るであらう。

（甲）アメリカは世界における第一流の資本國と爲つた。石炭、メタル、ペトロリユームの生產

高は無競爭國であり、戰爭中巨大なる商船隊を建設して、壯大なる陸軍國海軍國と爲つた。更に同國は殆ど全世界のクレヂツト抱持者と爲り、莫大なる資材と高度に發達したる技術とを以て戰後の好景氣時代中、イギリス主要産業の競爭者並に商業上の競爭者として、正にドイツの地位を執つた。しかも次ぎの世界戰爭の偉大な勢力と爲り、ヨーロッパに對する政策は尙未だ鮮明に決定せられては居なかつた。即ちイギリス、フランスの間に介在する限り、アメリカはフランス側に付いた。フランスとベルヂウムにおける銀行支配上の活動はこの關係において重要である。若しアメリカとイギリスとの間に戰爭が勃發するならば、フランスはアメリカ側と同じ側に就き、嘗てドイツが左樣であつた以上にイギリスに取つて危險であらう。潜水艇飛行機および近代新式の大砲を以てフランスはイギリスを爆擊し、封鎖し、イギリスに侵入するかも知れない。又極東ではアメリカの利害關係は一層決定的であり、實にわれ等は言明する——日本の獨占政策に對して斷乎たる態度を執るところにアメリカの將來はあるのである。支那における門戸開放政策はアメリカの爲めに決定的勝利であり、アメリカの國内事情に關し、その市場は戰爭と平和との爲めに破壞せられた。ヨーロッパが貧血症に惱んで居る間にアメリカは多血症に惱んで居た、失業と勞働不安とが流行であつた。

イギリスは完全に競爭相手のドイツを壞破して、一層强力な協力相手——アメリカを殘すのみと爲つた。自然イギリスは戰爭の場合、日米との友誼を維持するに熱心であらう。しかしこれは

(乙) イギリス帝國の統一を脅威せざるを得ない。イギリスの主たる植民地は多く日本に反對であるからである。しかもイギリスは最早や單獨でその武裝上の負擔を支へ得ないので、自然自からデイレンマに陷つて居ることを感知して居る。事實日本人反對のイギリス植民地は彼等自から資本家國民で、その目前の利益は往々イギリスの政策と合致せぬ。

ヨーロッパにおいてはフランスの政策がイギリスに取つて決定的の、そして二重の脅威であり、經濟方面に在つてはドイツに對するフランスの命令が不可能である。小さい中央ヨーロッパのチェツコ・スロワキア、ポーランド等、殆どフランスの命令が不可能である。小さい中央ヨーロッパのチェツコ・スロワキア、ポーランド等、殆どフランスの植民地化するほどフランスに依つて、大に財政化せられて居る。そしてフランスの軍事政策は鼓舞激勵の下にヨーロッパを支持して居る。

イギリスの政策は(イ)大なる節制を以てドイツを取り扱ひ、現在の地位はイギリスとして實に堪へ難く爲つた。尙ドイツとの友好はフランスと紛擾の場合、甚々有價値の同盟を意味するので、(ロ)帝國統一上の大なる、そして深刻なる問題に參加する爲め、ヨーロッパの平和を維持すべく、同時にイギリスには有力なる團體があつて、大體フランスの態度と一致し、帝國の統一に關する限り、鐵血政策を確信して居る。

近東においてイギリスの政策はイギリスの防衛として大アラビア國の設定に依り、エヂプト、インドの連繫を目的とし、ケープとカイロとを結んでアフリカにおけるイギリスの脊骨たらしむるや

うに又カイロからカルカツタを結んで南西アジアにおけるイギリスの脊骨を形成しようと云ふ肚であつた。斯くてメソポタミアは北方においてこれを守護し、戰略的にメソポタミアの重要性を形成するのである。

(ハ)フランスはその舊敵ドイツを破摧した。しかし同時にその古い同盟ロシアを失つた。この喪失を償ひ、そして得るところあるべく、フランスはポーランド、チエツコ・スロワキアおよびルーマニアを以てロシアに代替ぜしめんと求めた。これ等各國はロシアとドイツとを分離せしむる上に役立つからである。フランスはロシアとドイツとの統一を最大禍危として怖るゝ事情があつた。フランスはドイツからの命令に就いて、單一條件さへあれば實現出來る。即ち佛獨の經濟關係は鋼と石炭と平和條約の下に切離せられて居るので、これを統一すれば萬事解決するわけである。しかしこれは賠償の支拂ひを得る間に國民の産業回復を避け難からしむるのみならず、同時に又軍事的勢力を復興せしむる惧れがある。フランスの陸軍派は軍事の經濟的基礎に關しては常に盲目であり、フランスの新前線としてのライン河およびバワリアの事實上の解體を求むる。しかもドイツ、オーストリアはカソリック教國としてフランスに服從して居る。

近東においてフランス、イギリスの間における利益の衝突も輕視せらるべきでなく、フランスはイスラム防衛の古い役割を引受け、トルコにおけるドイツの古い地位を占有を好むこと明白である。

る。

(ニ)日本の地位は支那の石炭、鐵および米を統制する爲めに、擴大を必要とすること勿論である。そして是れまで日本の支那に對する接近は彼れが迂濶に逸せず、捕捉した利益を日本に與へた。しかし世界勢力として日本が能く彼れ自からを支持し得るか否かは大なる疑問であり、今やアメリカは決定的の態度を執り、イギリスの助勢は最早や賴るに足りない。このイギリスとの關係においてフランス、日本間の諒解に就いて、極東共和國の表示は重大である。同時にフランスがアメリカに對して親善であるのも指摘せらるべきである。

(ホ)同盟國と共に戰爭開始前イギリス、フランス並にロシアはその經濟的軍事的機關の完全な潰敗の下に引き下がる外なかつた。しかし革命が生じてロシアを今一回資本主義ヨーロツパに對する防禦の地位に居らしめた。そして彼等の英雄的大成功の鬪爭は西ヨーロツパにおける深刻な經濟的破滅と共に、ロシアに對する政策を再考すべく、西ヨーロツパを餘儀なくせしめた。しかしソヴイエトロシアの軍隊を討破するに失敗した西ヨーロツパ諸國は同じ最後主義即ち彼等各自の國家に革命の擴大を防ぐ爲めに經濟的調和に傾いた。各國はロシア革命の擴大を防止してロシアの資源を統制し、彼等自身の經濟上政治上の支配下に單なる植民地たらしむべく期待したのであつた。ロシア側から言へば彼れも流石に外國資本の必要を認め、それに對する利子の支拂ひを行ふべきである

ことを知つて居る。兎も角大問題は如何にそれ等の讓渡を爲すべきか、そしてロシアの大資源に對して最後の管理を行ふべきか、

われ等は失望を要せぬ。われ等は元氣を失ふことさへその要がない。われ等はわれ等が獲たものを確かと摑み、われ等の使命がロシアにおいて社會主義經濟の基礎を据えるのにあつたことを知るべきである。

と、是れは一九二一年三月ロシアの共産黨大會におけるカメネフの演說であつた。

現在國際關係の形象に對する以上甚だ匆卒なる研究が、明かに資本合同の日尙未だその曙光を示さない事を明かにする。少くとも今一回の世界戰爭がその統一を企圖するのに必要であらう。將さに發生せんとする形勢を捉へて、事態を豫想することも容易でない。現在の傾向は餘りに混雜し且つ衝突して居る。われ等は斯く觀測して居り、フランスは現に親しくない憎惡して居る國民の双方に對して親善なる政策を推行して居る。何れにしてもそれは重要な點ではない。問題は如何なる事態が戰爭の結果と爲るかであるかである。世界大の資本主義統一に指導する世界戰爭は否決定的戰爭でなければならぬ。しかも斯かる長びく戰爭の結果として大交戰國間には或共通の諒解が成り立たないとも限らない。そして世界戰爭が强烈な一擊と勝利者側の平和を以て終はる以上打破せられた敵の復仇が各國即ち勝利者と敗北者等々の上に痛ましく繰り返へさるゝであらう。

資本主義の世界において來るべき時期に對する鬪爭は、勢力の世界的均衡を設定する形式を採るらしい。即ち若しこの均衡が次ぎの世界戰爭以前に到達するならば、その戰爭は優柔不斷に終はり世界借欵を以てけりを付くるらしく思はるゝ。われ等が以上話したどの國家の鬪爭と彼等の種々の會議と國家の新均衡に到達し、遂に世界借欵を形造るか否か。或は又鬪爭を通じて右借欵成立するか、更に又意見一致して、その結論に達するか否か、少數の爲めに全世界の物質的資源と勞働資源との意識的組織が成立するか否かゞ問題である。しかしこれは總て資本主義の純然たる傾向の整然たる發達を確實にする。實際において傾向は純然として而も整然としては居らない。資本主義は殊に矛盾に滿ち、存在の爲めに武力に呼びかくる。武力の義務とその單一の希望とが世界資本の成就完備と相打つにあるからである。その際資本が世界支配の方向へ動き、世界不景氣の理由の下に兵力よりも、寧ろ協議の形式に依る結果を求めつゝある時、勞働の統一に對する叫びが渦卷きと爲り、又强硬化して居る。これは組織の統一でも又實に統一が出來ることでも願はしいことでもない。外見の相違と術策の相違とが事實看過するのに餘りに眞實である。

それにも拘らず一般的にヨーロッパ及び世界の形勢は統一に對して聲高く叫んで居り、組織の統一が問題にある爲めに、われ等は行動統一に就いて進中しなければならない。それは出來るか、われ等はそれを信ずるのみでなく、それが唯一の効果ある術策たるべきことを信ずる。組織の統一が

遂に實現する時に惡いことでなく、行動統一の結果として精細に仕遂げらるべきであるからである。われ等は若し組織の必要を見る爲めに進んで居るものならば、共に飽くまで働かなければならぬ。そして今日群衆の主要問題がその性質において國際的である以上は國際問題の研究、特に資本主義帝國主義の研究が勞働階級の必要なことゝ爲つた。

三、ドイツの帝國主義

ドイツの發展は一、八八八年ウイリアム二世の皇位繼承の年から始まつた。それ以前ドイツの植民地政策が始まつて居たことは事實であり、特に一、八八二年ドイツ植民地統一が形造せられたこと、ナハテイガール（Nachtigall）がギニア（Guinea）海岸において活動したこと、カールピーター（KarlPeters）が東アフリカに在つて活動したこと——何れも一一八八四年——は人の知る通りである。しかし一、八八八年二月六日ビスマルク（Bismarck）がその演說において二千八百萬マルク（約百三十七萬ポンド）の新國債を募つて、軍備の經費に充つることを發表したことは、疑ひもなくドイツにおける劃期的の事であり、又實にヨーロッパ政治上、稀有の事であつた。

而してこの新經費を首肯せしむる種々の事實が謀し合はされた（一）一、八八五年のフランス法律が軍器の輸出を認許した。そしてヨーロッパ、アメリカの市場におけるフランス兵器の急激な氾濫が直ちにドイツ軍備產業上に反動を惹起し、有名なレーウェ（Loewe）商會を主とする種々の聯合が出來、資本の大組織が必然政治及び軍備產業上に重大な感化を與へた。斯く一旦新プログラムが設定せらるゝと結局一層產業の大發展を促がした。そして一、八八九年にはレーウェーは小軍備の世界市場中にあつて、速かにその卓越振りを見せ、軍備市場の有力な結合を組織するに成功した。（二）ドイツの國際的地位における重要な勢力は必然斯かる準備を促がし、フランス、ロシアは共にその形勢に引きずられて行つた。ビスマルクが彼等を孤立せしめた成功の時期が明かに今早や終焉に近づいて居たのである。しかもドイツは列國が東方西方の前線において同時に彼れを脅かす聯合の危險を生じつゝある局面に際會して居たのである。一、八八九年フランスの平時における兵力はドイツよりも六萬三千の多きを算し、一、八九一年フランス、ロシア間の實際上の同盟條約が締結せられた。（三）中央アジア（AsiaMinor）における勢力範圍を擴張中、一、八八八年ドイツのシンデイケートはアナトリア（Anatolia）鐵道會社と爲り、ドイツ銀行の財政的援助を受け、遂にスクタリ（Scutari）・イスミッド（Ismid）線の、九十九年租借に成功し、又アンゴラ（Angora）まで延長の罐利を獲得した。ドイツ銀行は斯くてトルコ（Turkey）における鐵道建設の背後にお

ける實勢力と爲り、この特別の協定はトルコが一、八八〇年イギリスの會社に對して、二十年間の租借を許して居たものを改めて整理した爲めに大きい問題と爲つた。この線路は一、八九二年事實上既に開通せられて居たもので、ドイツは一、八九三年更らに二つの協定を得た。即ち一はバグダッド（Bagdad）までテイグリス（TigrisValley）溪谷を經てカイザリア（Kaisariya）線を延長すること。他はコニイア（Konia）へ支線を建設することであり、後者は一、八九六年一般交通を開始せられた。バグダット鐵道がドイツの計畫として第一重要線となつたのは是れで、テイグリス溪谷線はロシア側の反對があつて失敗に歸した。その間フランス協定は一、八九三年コンスタンティノープル（Constantinople）とスミルナ（Smyrna）を結ぶ線の延長建設權を得るに成功し、ドイツ、ロシア、フランス何れもトルコにおける鐵道敷設に直接の利益關係があつた。後日これ等各地區における財團間の變革に就いて、國民的不和を生する第一の問題と爲つたのは、斯うした事情があつたからである。（四）アフリカのカメルーン（Cameroons）、トゴーランド（Togoland）、東及び南西地方におけるドイツの植民地發展政策は、特に著しかつた。

ドイツの植民政策は新皇帝が自から勢力を把握すると共に、大刺戟、衝動を受けた。大海軍兵學校の增設と植民移住者とに後援せられた若い、活潑な皇帝は欠點と長所とを善く知り、又ビスマルクの偉大なことを知つて居た。しかもビスマルクは決して甚だ熱心に植民地信仰を抱擁しなかつ

た。彼れは寧ろドイツの孤立及び意氣軒昂な裡にヨーロッパ問題に對する自家の大勢力を保留せんとした。即ち皇帝とビスマルクとは個人の事件として鬪爭を觀じ去る人間以上の或者であり、事實カイゼルの勝利は個人的人格のそれでなく、政策の勝利であつた。皇帝は既にドイツが物質的要求を有することを認識する證據を與へた。一、八八九年皇帝は始めてトルコを見舞つた——この見舞ひは前年ドイツとトルコとの間における鐵道協定と關連し、直ちに彼れの世界政策に對する見地如何を證明し、又ドイツがそれに對して一部の野心がある事を明かにした。ウイルヘルムがビスマルクの助勢なく、自からそれを支配したドイツは一、八七一年當時のドイツと大なる相違であつた。而してドイツそのものも一、八七一年の世界と全く異つた世界に存在して居た。ビスマルク並にビスマルクが殘して置いた政策は急速に產業並に對外貿易において、その增進を示しつゝあるドイツであつた。ドイツの全政策、その保護政策、新帝國主義、科學的企業と一般教育政策とは何れも目ざましき經濟的結果を發生すべく協調した。一、八八五年四百萬トン以下の洗鐵がドイツにおいて溶解洗練せられたものが、一、九一三年には千五百萬トンとなり、一、八九一年から一、九一三年までの間に出炭額七千三百萬トンが一億八千五百萬トンに增進した、製綿業方面に在つても一、八九七年から一、九一二年の間にその製出高二倍し、世界商船においてもドイツは、一、九一三年イギリス帝國の次位に上り、一、八九〇年イギリスの對外貿易高三千五百萬マルク（一億七千一百萬ポン

ド）であつたものが、一、九一三年には十億マルクとなつた。

特に輸入額に在つては鐵鋼において大發展を示し、イギリスと比較して、最も注目すべき結果を示した。即ち

年次	英	獨
一、八五〇	二、三〇〇、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
一、九〇〇	八、九五九、六九一	八、三八一、三七三
一、九一二	八、八三九、一二四	一七、五八六、五二一

即ち一、九〇〇年イギリス、ドイツ兩國はその生産において事實上並行し、それがドイツ皇帝自からわれ等の將來は水上にあると宣言したのと同時であることは注目すべきであつた。兩國間の競爭と敵視とが始まつた。ドイツの生産工業に對し一世界の職場が嫉視的恐怖を起し始めた。そしてこの時ドイツではカルテルス（Cartels）その他資本結合の形式が産業發達促進のみならず、階級關係、政治的黨派、政略を變更する意味において漸く眼を引いた。ドイツの新地位は一層大なる海上勢力を命じた。而してドイツ皇帝は獨立提督を設定し、陸軍の支配から海軍を解放することに依つて、その即位を目立たしめた。一、八九〇年四戰艦建造案が議會を通過した。そして一、八九一年のフランス、ロシア間の諒解がドイツ側に一層强大なる陸軍の準備を命じ、單だ海軍の不可避な

增進を延期させた。

ヘリゴランド（Heligoland）の所有（一、八九〇年）がドイツをしてキール（Kiel）運河の築造を進めしむる口實を與へた。キール運河即ち正式に言へば、カイゼル・ウイルヘルム・キール（Kaiser Wilhelmkiel）運河で一、八九六年完成せられた。これはバルテイツク（Baltic）海から北海（North Sea）までのドイツの航路を用意するものであり、その海軍力に對して大なる、即効力を添ふるものである。一、八九五年クルーゲル（Kruger）大統領宛カイゼルの有名な電報は、北海におけるイギリス艦隊の動員を行はしめた。この事件はドイツにおける大海軍學校に對して、準備上の訓戒と記述上の貴重な要領とを與へた。一、八九八年支那遠征隊は遭難の宣教師二人の爲めに復讐すべく派遣せられ、議會を通じて新海軍案を得る理由も出來た。この案の結果は國際的に更らに重要であつた。にも拘はらずイギリス、ドイツ間の意識的に組織せられた競爭は尙逡巡せられ、ロシアとフランスとがボア（Boer）戰爭中、イギリスに對して宣戰すべく準備して居る間にドイツは傍觀した。同國は當時同國自から平和の保留に就いて、その理由を有した。ドイツ及びイギリスは一八九八年の諒解下に相互アフリカの各地區において助け會つて居た。又支那において彼等は共通且つ親善な政策の推行を爲して居た。一、九〇〇年ドイツはサモア（太平洋）における十分の支配權を獲得した。サモア（Samoa）にはイギリス、アメリカの資本があつたが、恰も當時イギリスはド

イツ汽船ブンデスラート（Bunde & rat）の大きさに關して、ドイツ海軍聯盟との間にグルに爲つて居た。一、九〇〇年の第二海軍法案を可決せしむべくイギリス海軍が機會を用意して居たのはこの時であつた。新案が前知せしめた通り海軍の建造は結局ドイツとイギリスの軍備競爭を不可避ならしめ、双方の擴張は止むところなく、背後に在つては兎も角も、中央アジアにおけるドイツの勝利と爲りつつあつた。

イギリスがエヂプト（Egypt）占領の非トルコ政策を適用してからさへも、ドイツのトルコにおける勢力はその卓越した力を行使するに至るまで、堅實に伸長して行つた。ドイツはその注視を怠らず、熱中した政策を推行した。そして彼れは他の列國と異り、單にトルコ分割に就いてでなく、全體の完全吸收を目的とした。即ちカイゼルは一、八九八年二度目のトルコ訪問を行ひ、又パレスタイン（Palestine）を訪づれた。特に經濟上の協定と軍事上の問答を行ふ準備としてパレスタインを訪づれたのであつて、彼れは宛がらに優秀なるドイツ帝國主義の代理でもあるかの如く總ての人に對する總てのものたらんことを求めた（All things to allmen）。エルサレム（Yersalem）においては皇帝はクリスト教巡禮騎士として描出せられ、ダマスカス（Damascus）においては回教信條の首領として描出せられた。その成功は十分の効果を示し、ドイツはバグダットとペルシヤ灣（Galf fo Persia）とに鐵道建設の協定を得たことであつた。兩地ともそのルートに副ふ重要な地

點である。ドイツとしては特に軍備の配置に就いて成功した。しかも一、九〇三年鐵道協定の財政援助と共に、ドイツは經濟的にトルコにおいて優越した。その年頃回教の非常なる復活は聖地巡禮の便利上、ドイツをして友人若くは同盟國として、メッカ（Mecca）まで鐵路を延長せしめた。この敬虔な行爲は同時にドイツの希望次第、アラビア（Arabia）へ軍隊を輸送する全獨主義の履行を可能ならしめ、斯くてイギリスの領有に對して、必要とあらば攻擊を加ふべくエヂプトとインドとの間の境界を馳驅することも出來るやうに爲つた。現にペルシヤに對するイギリス貿易——相當額の貿易を脅威して居る。ブレスフオード（Braisford）記者はドイツの貿易は前線と經濟との結合を示す近代的特徴を有すると記述した。實に大膽にして遠見ある計畫は列强の憎惡をそゝらないでは居ない。そして一時的にはその同盟國に對して好都合であつた。イギリス、フランスの協商も一時ドイツに取つては敵視の原因とも結果とも爲つた。

協商の一條項はエヂプトにおけるイギリスの自由手腕に對して、モロッコ（Morocco）におけるフランスの自由手腕を揮はしめた。しかしドイツはモロッコに關しては自からその利害關係があり又その企圖を有した。しかも財政的、通商的利益が大きく、更に尙大きく爲りつゝあつた。鑛區におけるドイツの利益は特に第一であつた。公衆事業に對する協定も相當であり、ドイツは總ての他國民より現金仕拂ひの一層擴大な土地を有し、その回教びいきの態度は仲介を餘儀なくせしめた。

自然モロッコは前後十年間ヨーロッパ外交の主たる渦心の一と爲り、こゝを舞臺にドイツは常にイギリス、フランス協商の强弱如何を試驗し、自分から亦トルコと中東における企圖を推行した。一、九〇七年ドイツの植民省が開設せられ、以前ドレスドネル銀行（Doresdner Bank）の總支配人であつたデルンベルグ（Dernberg）が最初の主務大臣と爲つた。オーストリアがボスニア（Bosnia）、ヘルツエゴヴイナ（Herzegoriaa）を併合したのは次ぎの年一、九〇八年で、この行動は餘のヨーロッパ各國就中セルビア（Serbia）とロシアとに對して大衝撃と憤激とを與へた。しかしドイツとオーストリアとは終始事態を監視し、畢竟それはベルリンからバグダッドまで中斷なき交通を實現する計畫の一部なので、特にドイツ、オーストリア（Austria）は事態の成行きを注意した。しかもこの併合に依つてドイツの勢力はバルカン（Balkan）を通して有力となり、就中トルコにおいて最も著しく、ペルシアに在つても漸次伸張して行つた。即ちドイツはペルシアにおいて一、九〇〇年來貿易關係を設定すべくドイツ銀行を頭首として同十年新帝國主義が活動をし始めた。

ソレは兎も角も一、九〇八年の危機は、秘密裡にトルコに對するオーストリアの賠償支拂ひと共に花咲き、折柄新危機が復た起つた。そして産業資本主義が危機を繰り返すに從つて展開し、その間資本家の帝國主義が限りなき外交及軍事の危機を通じて、その方面における平和なき進路を推進した。一、九〇八年の危機にモロッコ問題の復活に依つて、早く續けられた。一、九〇九年の意見

一致の爲めにフランスに對して政治的にその自由手腕を與へられ、ドイツも經濟的に同じく自由手腕を獲得すると、双方の所謂自由手腕は圓滑に行使出來なかつた。フランスは兵器を以て國中を充滿し、獨立の根抵深く掘り下ぐるかと思ふと、モロット財源利用の爲め、經濟的協同の努力が皆な失敗に終つた。そして一、九一一年に至つて問題はその極度に達し、同盟國援助の用意があると云へるイギリスの宣言は殆どヨーロッパ戰爭への形勢驀進を示した。全獨同志は聲高にソレを侵略行爲と呼んだ。しかしドイツは宣戰しなかつた。財政的危機は彼れをして平和的態度を決心せしむる上に主要なる條件であつたからである。ドイツの經濟資源の素晴らしい發達は部分的には融通性があり、しかも不安定な銀行制度に依つて、それを可能ならしめた。實に貯蓄銀行さへも放送に放資し、製造事業に融通し、割引證券若くは投機的不確實な株券を買收する等、その資金を撒布した。恐慌來の場合、顧客に賠償することは、貯蓄銀行に取つて決して容易の事ではない。全獨の主義者は一、九一一年彼等が戰爭の恐怖を撒布した際に、この事を發見した。現に同年九月十月の兩回ドイツは三十億マルクの即時融通を要求した。そしてアメリカ銀行はその機會を捉へて、平時に在つてパリーから三割乃至四割の利子を以て融通を受けて居たベルリン當事者に、六割乃至七割の利子を以て貸金を行つた。ドイツがアガヂール（Agadir）にその國施を飜す贅澤の爲めの經費がそれであつた。

一、九一一年十一月四日ドイツはフランスの條約を締結した。而して右條約に依つてドイツのモロッコに對する防衛を認めたのであつて、これより先き五年以前兩國は聲を大にして、モロッコの獨立を要求したのであつた。ドイツは更に上部カメルーン（Cameroons）の土地一部をフランスに讓渡し、これに對してフランスはフランス・コンゴーの一部を割いてドイツに贈つた。斯くて條約はむき出しに輕蔑を以て受け入れられ、全獨主義者から深刻な憎惡を以て迎へられた。ベルンハーディ（Bernhardi）は言つた、われ等の回教徒との關係はモロッコの放棄に依つて惡く一變した。われ等は全マホメッド（Mahammedan）教國における權利を失つた。この事件はわれ等に取つて實に重要である——と。ドイツの勢力は尙又一、九一二年二月バルカン・ブロックの形式に依つて脅威せられ、次ぎの年の冬バルカン支配の夢に對して投げ出された無樣な强打を受けた。のみならずドイツの二同盟國オースリアとイタリーとはバルカン政策問題に關して相互に脅威と斬殺との爲めに太息を吐いて居たので、同盟國間に不和確執が見えて居り、それが彼等を結ぶ友情よりも寧ろ恐怖を感ぜられた。即ち三國同盟がこの儘改められず、永く放置せらるべきか否かも疑問であつた。しかしその次ぎの年にドイツの希望復活し、一、九一三年八月ブカレスト（Bucharest）條約の成立は即ちベルリンの平和として、ウイン（Vienna）及びベルリンにおいて大に口授指令せられた。新バルカン聯盟を破壞したのは是れであり、かの聯盟こそドイツの東方進路への障害物であつた。

セルビアは勝利を博したとは言へ巢の中におけると同樣閉ぢこめられて居り、東方に在つてはブルガリア（Bulgaria）と和合せず、西方に在つては國內不和の爲めに支離滅裂なアルバニア（Arbania）があり、否應なく中央ヨーロッパの前衛と爲りつゝあつた。又南方においてはドイツの勢力日々にその地盤を得つゝあるギリシアがあつた。

ブカレスト平和條約と世界大戰の勃發の前廻との間の歷史は將に來らんとする戰爭への熱心な準備の歷史であり、一般の再武裝が行はれた。危機は危機に次ぎ、ドイツは南アフリカにおいてエチプトにおいてインドにおいて、——而して更にアイルランド（Irland）において、盛んに反英活動を起した。そして炭載ステーションとしてカリビアン（Carbian）海とメキシコ（Mexco）灣の西アメリカ海面を得つゝあつた。又大平洋においてはドイツは無電に依つてアイルランド所有地點の連繫を得ることに忙はしかつた。この事は一、八〇〇年來のことで、ドイツは寄港地の建造をも進めて居た。更に國內においては、キール運河の擴張を進めて居り、同運河は既にドレッドノート艦（Dreudnanght）の進航に依つて時代おくれの運河であり、遂に一、九一四年の夏擴張工事を終了したのであつた。

兎も角もドイツをして舊世界の優勝者たらしむべき戰爭の時期は熟して居たかの如く見えた。この恐ろしき打擊に依つてドイツはその北海から地中海（Mediterranean）まで打ち擴がる中部ヨー

ロッパ、マルモラ海（Marmoa）及び海峡、アジアの大豊饒地まで南方、東方かけてその夢想を實現すべく廣大な出入口を獲得しようと云ふのであつた。實にドイツは各國が肥沃な多くの土地を利用すべく、既にソレを併合し、或は耳號を付して居る際、侵略的帝國主義時代に入つたのは不幸であつた。尚ドイツが列强より少からず勢力圏を要し、これに關して熱心であつたことも事實であり、歴史は侵略的帝國主義、即ち積極的に第一世界戰爭における立案作製をドイツの上に課したのであつた。

四、イタリー建國の餘勢

イタリー王國は一、八六〇年建立せられた。そしてヴェネティアは一、八六六年占有せられ、ローマは一、八七〇年占領せられた。その統一上、ピエドモントは主要部として活躍した。しかもピエドモントは經濟的に最も進歩した、進歩的な地方であつたので、建國上、主要な部分として活躍したことも、決して偶然ではなかつた。ヴイクトル・エマニュエルとカヴール伯爵との下に在つてピエドモントは急速に近代國家として發達し、軍事的に經濟的にその資源を發達せしめた。前後二十年の鬪爭後、遂に統一が成つた時に新國民の産業と商業とは保護的關税と政府の保證に依つて保護且つ奬勵せられた。この政策はイタリーの勞働が特に石炭の欠乏と鐵道建設の困難との下に甚だ難澁であつたのに拘らず、兎も角も立派に成功し、殊に後年に至つて大成功を收めた。一、八九七年から一、九一三年まで輸入輸出總額は高貴な金屬を含めて五千ポンドから二十四億ポンドに增加し、輸出製造品の價格は驚くべき額に達した。就中絹——原料、製品を合せて——の輸出は跳躍的に度外れに增進した。その結果、ミランはリオンと並んで世界第一の絹市場と爲り、その間イタリーの絹糸布は外國製品を壓倒し、これを放逐するのみならず、更に輸出を增大した。尚イタリーの商船は一、九一四年世界商船國民の第八位に上つたほど大發達を示した。唯同國の大弱點は石炭の欠乏であり、假りにこれを考慮するにおいて上記の數字は一、八七〇年來多少とも意識的に奬勵せられた加速度の進歩を示したものに外ならない。この上の進歩は變化あり、野心ある對外政策において速かに表現せらるゝであらう。その新地位と權威を維持する爲めにイタリーは急速に陸海軍を擴張した。一般的兵役も他のヨーロッパ諸國と等しく發令せられ、近代軍艦も建造せられた。一、八七五年政府は小銃等兵器廠の建築を始め、一、八八〇年それを完成した。又一、八七七年、同八年には新海軍計劃を決定し、フランス工場においてその請負を引き受けさせた。三國同盟に加盟することは何等海軍建設の必要を免かれしむるところなく、事實正にその反對で一、八八四年、同

五年にイタリーは以前よりは遙かに進んで陸軍八年計劃を立て、二億千五百萬フランの經費豫算をこれに充てた。即ちボッズオリーにおけるアームストロング會社は右イタリーの計畫に就いて相當の仕事を引き受けさせられた。この時この關係からイタリーとイギリスとは密接な關係を保つた。一、八八〇年一月ビスマルクは斷言した。イタリーは今日平和愛好の保守的列國中に數へられなければならない、と。事實イタリーは却て時代の侵略的帝國主義中に掃き込められ、既に發展すべき方面に對して投網しつゝあつた。斯くてそのアルプス横斷、アドリアチイツク海横斷の夢は次第に具體的と爲り、同時に同國は北アフリカ殊にその近接した地方チユニスの如き、自然の勢力圏であると考へた。地理的地位、歴史的傳統は等しく地中海支配に就いてイタリーを唆つた。唯一の難問は他國が既に地中海において各自設定するところあり、北アフリカに在つて、その事業經營に多忙を極めて居た事である。しかもフランスのチユニス侵入は特にイタリーに在つて、その怨恨を亢ぶらせた。しかしその反對は何等狀勢に影響するところなかつた。問題は事實上、ベルリン會議において處理せられて居たからである。フランスの行動に對する應報としてイタリーは一、八八二年三角同盟に加はつてドイツ、オースリアと一緒に爲つた。そしてこの同盟は五年間三國間に共通な防禦的軍事政策を確固ならしめた。イタリーはこれに依つて依然オーストリアの支配下にあるイタリーの各地方に對する諸要求を讓渡した。その中、主たる讓渡はイタリーへの侵入路であつたトレテ

イノ溪谷讓與であつた。他方イタリーは地中海政策を推行する上に自由であつた。しかしイタリーの同盟國は同國が他から攻擊を受けても、これを援助することをしなかつた。條約は自然イタリーに在つて相當の不滿を惹起し、國民主義者はイタリーの問題に就いてオーストリアが依然抑制的政策を執つて居るのに就いて、一層の不信を生ぜるを得なかつた。仍而恰も條約の滿期前、ロシアとフランスとは同盟からイタリーを脱退せしむる目的でイターに接近し、ロシアはトリエスとイストリアを獲得するのに對して、イタリーを援助すべく申出で、フランスは若しイタリーが引き揚ぐるならば、トレンテイノにおいて援助を與ふるであらう旨を約束した。しかしイタリーは双方の申し出を拒絶し、一、八八七年五月同盟を新たにし、イタリーの首相クリスピーは本來三國同盟の强力な支持者であつたので、イギリスから援助の確約を得た。イタリーが地中海において重大な脅威を受くるならば——と云ふのであつた。爾後三年を經過してクリスピーは海に在つては、イタリーに對するイギリスの援助を獲得し、大陸に在つてはドイツの援助とオーストリアの默諾とを得た。更にドイツの『平和的侵入』の爲めに解放せらるゝイタリーを措いて、ドイツはイタリーが有望な市場であり、諸企圖に對する廣い場面であるのを見て、イタリー發展問題を考慮すべき時期であることを看取した。

チユニスにおいて打ち退けられ、一、八八四年陸軍八年計畫を決定したイタリーは、一、八八五

年その侵略政策を開始した。メツサワその他紅海における他の部面を併合したその時である。場所としては何れも有價値ではなかつた。しかしアビシニアの豐饒な高原への出入口であり、これが爲めにイタリーは戰爭を促進し、一、八八七年一月ドグレーにおいて大敗を喫した。しかも大敗を喫しながらイタリーは當初の望みを捨てず、或酋長が他と相反するのをあやつゝて、アビシニアへ一層大なる讓歩を申し出し、ソマリランドに對する保護設定に成功した。そしてイタリー國人はアビシニア王の死に乘じて侵入の利益を得たので、彼等自身重要中心地に根據を設定し、王位への一請求メネレクの操縱に成功し、一、八八九年五月ウクシアリにおいて條約調印を了し、右條約に依りてイタリーはアスマラを含む出入口の一部を許容せられた。イタリーは尙又諒解の形式に依つて半保護權を確立し、アビシニアの所要武器と國債とを給する獨特の權利を保留した。條約は又左の條項を含んだ。

エチオピアの國王陛下は他の國家及び政府に關する總ての問題取扱ひに關し、イタリー國王陛下の政府をして、それに當らしむることに滿足する。

イタリーに從へば右はヨーロツパにおけるアビシニアの利益を代表する權利を同國に賦與せられたものであり、メネレクに從へば右は單にその希望ある場合、イタリー人の助力に依賴する權利をアビシニアに賦與したのであつて、何等斯かる服從を强いるものでない。勢ひ兩者見解の衝突が遠

からぬ將來において問題の發生を豫想させた。クリスピーは又トリポリにおける土人酋長の或者との間における友情をイタリーの爲めに得さしめ、この事は後年イタリーの爲めに重要と爲つた。イタリーを同盟に入れたのはドイツであつて、同國本來の目的は單にフランスの外交軌道内に入ることから、これを防ぐ事であつた。しかもこの目的はドイツ自からイタリーが自國に對する直接的經濟價値を有するものであることを發見した際、依然變改せらるゝところなかつた。そして爾來一世紀間殆ど繼續した。イタリーに對するフランスの感情はドイツが一、八九三年メツツ近くで大演習擧行の際、イタリー皇太子の姿が見えたことに依つて點火せられた。メツツは即ちローレンの一部分でフランスのこれに對する感應は四億ポンドに上る國債をイタリーの爲め返還してやつたことであつた。實に四億ポンドの債權はイタリー財政上の恐慌であつたのであつて、イタリー、フランスの關係はフランス大統領カルノーがイタリー人の暗殺に遭つた爲めに從前以上深刻なものと爲つた。又フランス人は前線の要塞近く密偵を告訴した事件に對する確信に依つて一層イタリーに對して感情を深刻ならしめた。

不滿足なヨートロツパ關係、國内の不安及び經濟的壓迫が東アフリカ問題に對するイタリー政府の態度を轉換させた。その間メネレツクは形式的にイタリーとの條約を否認した。又イタリーに對して各酋長を唆かした。勢ひ酋長等は反抗的態度に出で、一度ならずイタリーに對して成功を收め

た。從つて風潮はアビシニア兵の爲めに有利に爲つて來た。そして一、八九六年三月最後の戰爭はアドワにおいて行はれ、その結果、土人兵空前の勝利に終つた。イタリーの希望は廢棄せられ、イタリー兵はカツサラから撤退した。偶然にもこの事はイギリスのスーダン奪取の決心を强化せしめ一、八九六年十月二十六日アデイス、アベベの講和に依つてウクシアリの條約は取消しと爲つてしまつた。アビシニアの絶對的獨立は承認せられ、アビシニアとエリトリアとの境界が改めて整理せられ、四十萬ポンドの賠償金がイタリー捕虜還送の爲めに同國から仕拂はれた。

今やイタリーはヨーロツパに在つても一層平和の政策を求むるに至つた。同時にドイツはイタリーと經濟的統一を密にすべく動いた。この爲めにバンカ商業精神が重要な働きを見せた。バンカ銀行は一、八九五年二十萬ポンドの資本を以て成立、これを設立したドイツは政府の力を以てこれを鼓舞したのであつた。自然急に主要な財政上の機構と爲り、その資本も遂に六百萬に達するまで膨脹し、年々三千二百萬の取扱高を示すに至つた。經濟界におけるこの銀行の政策及び勢力はドイツの政治的生活と共に、疑ひもなく一、九一五年まで續いた。尤も戰爭中、非ドイツ主義著作家は聊かこれを誇張の氣味もあつた。さて一、八八七年から同九六年まで殆ど中斷なきクリスピー政府の不注意な無節制振りは、政府株の低落に反映し一、八九四年には一株（百ポンド）が七二ポンドとなつたが、流石に政府も平和政策と經費節減を命ずるに至つた。アビシニアにおける暴虎憑河の失

敗も變更を決定し、一、八九六年九月フランスとの條約を締結、友誼的に當惑せるチユニス問題を解決した。次いで一ケ月後には皇嗣とモンテネグロ內親王との結婚に依つてロシアとフランス同盟國との關係を密接にした。一、八九八年には更らに彼等相互間の關稅戰爭を終結して、フランスとの關係を改善した。これが如何に重要な事實であつたかは、さしも永續した兩國間の摩擦、軋轢が海軍休息日の設定と爲つたことに依つても看取せらるゝところであり、兩國民はその後七年間海軍休息日即ち競爭中止を享樂した。しかも一、九〇〇年ドイツにおける財政の危機に際し、イタリーは金錢的援助の爲めにフランス側に轉向することが出來た。同年イタリー及びフランスはモロツコ及びトリポリに關して一致を見るに至つた。次ぎの年パリではイタリー公債一億フラン買上げ、イタリーをして緊急な經濟的危機の荒しを凌ぎ得さしめた。かくて一、九〇二年兩國間に發生し得べき意見相違の點を平和的に解決する契約に調印し、フランス對イタリーの關係は引續き改善せられ一、九〇四年イタリーの『借金』は再びパリ取引所の目錄に揭げられ、對外的に高い信用を見せた。事實フランスはイタリーの金貸しとしてドイツに取つて代はらん意思を有したのであつた。そしてフランス、イタリー間の諒解增進は延いて三國同盟の動力に對する大打擊であつた。しかし最後的打擊は第三者の事件に依つて行はれた——即ち英佛協約の成立である。イタリーはその石炭補給に就いて專らイギリスに賴つた。イタリーへの石炭補給を支配し得るものは同時にイタリーの外

交政策を支配するものと云ふのは、或點において明かな事實である。しかもイギリスは今やドイツ『傳統の敵』と同盟を締結し、自然又三國同盟の敵と手を結んだ。イタリーはフランスから金の給與を受け、イギリスから石炭の給與を受くる。勢ひ層一層協約國側へ傾倒せざるを得ない。しかしドイツとの間に就いては強く塹壕内に閉ぢ込められて居る。勢ひ容易に同盟から離反することが出來ない。その爲め世紀を通じてその政策は不確定目つ氣迷ひの態であり一九一四年まで永くドイツは對フランス戰爭において、イタリーの助力に頼ることが出來なかつた。即ち一、九〇五年六年の間、イタリーは大膽に自から協約國負であることを宣明した。同國は單に供給を受くる故を以て協約國側に依存して居るのみならず、更にイタリーは絶對に地中海に在つて協約國側の恩惠に浴することを知つて居たからである。即ち又地中海において戰爭勃發の場合、その海岸を防衛することも出來ないことを知つて居たからである。しかしイギリスがモロッコにおける自由手腕をフランスに與へたと同じく、同國自からその返報としてエヂプトにおける活動の自由を得た。更らにイタリーはフランスに依つてトリポリタナに侵入しないことを條件に保證を與へられたのと交換的にモロッコにおけるフランスの政策を妨害するやうなことは一切敢てしないことを約束した。勢ひこれ等の事情に依つてアルゼシラス會議においてイタリーの代表者は一、九〇六年ドイツに反對して投票した。要するにイタリーは地中海におけるその大利益の進路に當つて、三角同盟が立ち塞がること

を容さないであらうことを明白に證明したのである。それにも拘らずドイツは一、九〇七年三角同盟を更新することに成功した。戰爭の場合、積極的にイタリーの援助——問題外ではあるが——を必要とするのでなく、好意的中立を確實ならしむるのが、その目的であつたのである。

斯かる穩健な目的さへも、その爲めにイタリーとオーストリア間の友義關係は消えて狐疑の情を惹起し、一、九〇四年以來、イタリーのオーストリア前線要塞を固めしめた。次いで一、九〇八年一月にはオーストリアの新外相フォン・エーレンタールがトルコ政府からノヴイバザールを横斷する鐵道建設の讓歩を受けた旨を言明した。右鐵道はミトロヴイザからサロニカに延び、ヴアルとボスニア線とを統一するものであり、イタリーはこの事を三角同盟の破棄と考へた。現に同條約の第七條にはバルカンにおける現狀（均衡）を保證することを規定してあるからである。イタリーはこの問題に就いて何等協議を受くることなく、事實前記の鐵道建設はアドリアテイツクとセルビアとを連結するロシア政府の鐵道を有利ならしむるものであり、假令ドイツ側で兩同盟國間の事態を圓滑ならしむるやう努めても、イタリトの資本家達は別にダニューブとアドリアテイクとを連結する鐵道と港灣との築造計畫を續けた。これはバルカンの資材を呑吐するに適當の施設を完うし、又Naor（近東）との貨物を復活せしめんとしたもので、結局中東との貿易をも復活せしめんとするものであつた。セルビア政府は北から南への現存線がオーストリアとそのドイツへの勢力とに影響

するところを抑制すべく、既にオツトマン帝國銀行と折衝中であつた。旁々斯かる鐵道を建設するに就いては、セルビア及びイタリー政府に依つて後援せらるゝ會社を成立せしむることも容易であつた。そして提案の内容はセルビア、イタリー、フランス及びロシア資本家の資本寄與を制限しようと云ふのであつた。それ等各國の協調は即ち非ドイツ連合に他ならぬからである。鐵道のルートはベルグラードからセーヴの溪谷へ。次いでトリエスト、ヴエニス、ミランへ。又はサラヂエヴオ經由、ニシからダルマ海岸へ。若くはプリズレン經由、ニシからアレツシオ（アルバニア）へ延長せらるゝのであつた。これに對するオーストリアの應答はボスニア、ヘルツユゴヴイナの急速且決定的な併合であつた。勢ひバルカンにおけるオーストリア、イタリーの不滿に對する平和的解決の望みは、絶對的打擊を免がれなかつたわけである。問題の好戰的決定に對する準備は爾來イタリー外交政策における重要な事實と爲つた。三角同盟は紙上ながら尙存續中なのに拘らず、イタリーは戰爭の際、その强味を得る爲めに他の同盟國を求めた。その爲めに同盟の解釋政策と謂ふ表現が一、九〇八年から同一四年まで時に或はその名を用ゐられたほど一般化した。

一、九一一年十一月の條約はフランスの爲めにモロツコの保護權を承認したもので、トリポリに對するイタリーの請求への信號であつた。トルコの强味を見たのにも拘らず、イタリーはその手に掴んだトリポリをネヂ取る企圖に就いて確信をもつた。イタリーはそのモロツコ、トリポリ諒解に

依れば、イタリー側に立つものと期待したからである。しかしドイツは豫ねてトリポリに就いて計畫を有することの信號が見えた。一、九一一年の夏の末、コンスタンチノープルで若しイタリーが早速トリポリへ赴かぬならば、北アフリカ炭場の讓渡を求むるドイツの爲めに先取せらるるであらうと觀られた。ドイツの北アフリカにおける野心は詰まり大西洋の港灣アガデイル喪失に對する地中海の埋め合せと云ふのであつた。既にドイツ領事館はトリポリにおいて設置せられて居り、トリポリはドイツ汽船航路の一寄港地である。資本は地方計畫の爲めに支出せられて居り、ドイツの財政團はトリポリにおける商業上の讓與に對して命令を受けて居た。これに對してトルコは讓歩と調和とを試みた、しかしイタリーはトリポリの完全な支配を得るより以外に、多少とも讓歩したものに滿足する風はなかつた。そして結局九月二十九日宣戰した。即ちイタリーは戰勝から身を起し、平和に依つてトリポリ、サイレナイカ、ドデカネス（中央アジアの南西隅十二島嶼）に對する主權を獲得した。イタリーに取つて驚いた事はその眞つ裸な無恥の侵略がイギリス、フランス以外全ヨーロツパの荒々しき批評を喚起したことであつた。條約國に對するイタリー側の不滿を利してドイツは滿期前八個月にして三國同盟を更新することが出來た。尙イタリーの不滿はトリポリにおける動機及び手段に對する先方の反對にも原因して居た。しかし三角同盟の更新は兎も角もオーストリア、イタリーの關係に對して一變化を劃したものであり、トリポリ戰爭中舊怨永へに深刻であり、

オーストリアでは軍部又は僧侶の黨派が皇太子を戴いてエーレンタール首相をして急遽イタリーへの侵入を行はしむべく強要したことさへあつた。しかし同盟更新の後、バルカン問題に就いてイタリーとオーストリアと協同するに至つたのは意想外のことで、アルバニアの神聖を確認し、同地からのギリシヤの撤退を命じ——同時にセルビアのアドリアティック進出を閉ぢ、ギリシヤの發展を防くこと等に關して、イタリーとオーストリアと協同動作を取つた。イタリーの皇帝、皇后のドイツ訪問は一、九一三年七月二十一日であり、中央アジアにおけるイタリーの利益に關してキール會談があつた。イタリー財政團がアダリアからバグダッド鐵道に連絡する一線路建設の讓歩を得た旨を宣明したのは、それから後直ぐのことで、イタリーのアジア政策なるものが始めて聞知せられたのであつた。當時既に知られた通りイタリーはドデカネス殊に中央アジアに對する憧憬に就いて、有利なローヅ島において、自から設定するところがあつた。これ等の事はオーストリア、イタリーの友情を脅かすこと夥しく、イタリーが強くなれば爲るほど、オーストリアの支配下にあるイタリー地方の再占有運動を强化した。そして協同政策が兩國の利益共通であることが何等その衝突を釀成する嫉視と、敵視とを防ぐところなかつた。大戰爭（前回）勃發前十年は非常な經濟的發展に依つて記錄せられた。しかも重要なる形態は電氣力の發達に對して水力利用の發達を示したことであつた。電氣力の發達に就いてイタリーはアメリカに次ぐ國であり、一、九一四年の電力九十六萬八

千馬力に達し、更に五百萬馬力へ增進の加能性を想はせた。（最初の電氣車はフローレンスからフイエソレまで開通、一、八九〇年運轉を開始された、イタリーはこれ等現實的基礎としての發達と共に、西ヨーロッパと中東間の半路亭であることの古い、輝かしい勢力の復活を夢み始めたのであつた。

五、ロシアの野心

一

フランス、ロシアの接近が一、八九〇年代早早ロシアの國際關係上に最重要な決定的場面を劃した。しかもそれが最後の成果を結んだのはそれから數年後の事であつた。實際に在つてこの事件には二つの方面がある。第一はフランス、ロシアの同盟締結であり、第二はその進行に對する故障の發生であつた。しかし第一は一層有力且つ恒久的なものたらしめ、第二は三角同盟の結成、强化と云ふが如き嚴格な事實、バルカンにおいてドイツのオーストリア侵略政策擁護、ロシアに在つてフランスの財政的興味、利害の發生等種々の事件から成り立つた。他面には又同盟への決定的運動からロシアにおける反動の脅威若くはブーランゼーの恥辱的敗退、一、八九一年から同二年に亘るパ

ナマ運河問題、フランスがブルジョア共和國であるのに對してロシアが官僚的であると云ふ明白な事實等々があつた。しかし何れも前記第一種の堅實な壓服に抗する事は出來なかつた。從つて一、八九一年協定せられた軍事契約はアレキサンダー三世の死（一、八九四年）後まで決定的同盟へ變形せらるゝこともなかつた。相當異つた人物ニコラス二世は登極と共に、疑ひもなく極東事情に催促せられて右變形を容易ならしむべく幾分努むるところがあつた。同盟は兩國家の統一を强固ならしめ、第三國から攻擊せらるゝこともあるであらう、同盟や戰爭の場合、孰れの國も單獨講和をしない事も用意して居た。唯ヨーロッパ問題殊にドイツ及び三國同盟を目標とする點は十分注意して居た。斯くてフランスとの堅密な結合はロシアに對してヨーロッパ問題に關し、一層權威ある資格及び權利を與ふるのみならず、同時に又同盟國としての富裕なフランスに心からの援助を辭せぬ債權者としての勢力を與へた。更にフランスとの結合はポーランドにおけるロシアの露出した前線を守護し、シベリア鐵道及びメルフ並にタシケンドへの幹線擴張に就いて、大藏當局をして目に見ゆる形を取つてその資金を注ぎ込ませた。ロシアをして能くシベリアを支配せしめ、成時期において日本を威壓せしめ得たのはフランスの金の力であつた。フランス資本の注入は尙又ロシアにおける產業革命の進步を助勢した。鐵道はその平常の革命的役割を充たした。延長一萬六千百五十五哩から（一、八八五年）二萬二千六百哩に（一、八九五年）四萬五百哩（一、九〇五年）に、更に五萬一

千哩（一、九一三年）に延伸し、一、八九一年から一、九〇五年の間に完成したシベリア橫斷鐵道は十四年間にして能くシベリアそれ自體を開發し、一層遠距離への移民を行ふべくシベリアの百姓を鼓舞した。又經濟的に日本、支那との連絡を密にし、ロシアに對して穀物、材木、石炭、鐵、銅その他の鑛物貿易並に右產業の道を開いたこと夥しい。又中央アジアの綿布、カンサスのペトロリユーム輸入の道も開けた。一方南ロシア鐵道（一、八九五年から同七年の間に敷設）は石炭、鐵の產地に對して口を開け、同方面地域全體の相貌を一變した。一、八八六年から一、八九九年の間における鐵の出產高はフランスの出產高を超ゆること四倍の多きに達した。他の產業に在つても夫々大變化、大發展を示し、一、八八七年から一、八九七年間の成績のみに就いて見ても、織物職人が四萬名から六十四萬三千名と爲り、陶器製造人はその間六萬七千名から十四萬三千名と爲り、大工業の職人は總數百三十一萬八千名から二百十萬名と爲り、その製出物の出來高もその間に三倍に達した（註　職工五割の增加に依る彼等の製出高は價額において優に三倍以上の增加を示す）外國殊にフランス資本は貧乏に慣れた百姓勞働者の滔々として流れ込むのを見て、都市に在つても自然安價な勞働を供することの出來ることを發見した。

ロシアはフランスとの同盟以來、一極東においては決定的態度を以て干涉の地位に在つた。少くともロシアとしては帝國主義者の積極的態度を示し、既にその前線右翼から東方への大進軍を開始し

て居た。そして日本は支那に對して壓倒的敗北を蒙らせ、その敗北が軈て平和併合と爲ると云ふ始末であつた。ロシアはフランス、ドイツと共に特に旅順港と遼東半島とを還付すべく日本に干渉、忠告した。しかもこの忠告は普通の外交辭令を以て進言せられ、凡て北京の安全、朝鮮の獨立並に極東永久の平和の爲めと云ふのであつた。美辭麗句の背後に潜む眞摯の程度如何が早速示威と爲り唯ロシアの態度に就いて考へさせらるゝものがあつた。即ちロシアは日本に對する支那の賠償に對してその半額の國債を發行して支拂らひを行はせた。その爲め同國はウラデイオストツクまで滿洲から鐵道建設の權利を獲、大連を終點としてハルビンから遼東への支線建設の權利も獲得した。これ等の事業が日本への忠告と何等利害相關するものでないことは明かである。或期限が過ぎ或約束があつてこの鐵道が支那へ引き渡さるべきであつたことは事實である。如何となれば斯かる鐵道は唯獨りロシアを利するのみのものであつたからである。しかしロシアはその間自國の財産防衛の爲めに滿洲に對して軍隊派遣の權利を獲得した。實にそれはロシア自から滿洲を支配するところあらんとする發端であつて、ロシアは有價な鑛山及び材木の讓與を受け、それ等の地域へ幾千の軍隊を送り、事實上それを併合したかの如く振舞つた。ドイツの廣洲灣租借は（一八九八年三月）更にロシアの要求を皷舞し、三週間後遂に旅順港の廿五年租借を許容された。旅順港は極東における最強最要の地位にあるのであつて、猶ほ列國が日本に對して北京の安全保障を理由に引渡しを忠告した

理由から言へば、旅順も結局同じである。即ちロシアが鐵道を建設し、軍隊を送り、旅順港の要塞を建設したのは畢竟自から永久占有の意思に因るものであること明かである。現に旅順港はロシアに取つて有利な不凍港なのである。その公海への進出を夢みながら永年これを要望したロシアとしては、遂にその所求を滿足せしむべく運命づけられたのであり、若し獲らるゝものなくば朝鮮、滿洲、蒙古何れも黃海への進出と支那の貴金屬商賣に利するところ少くなかつた筈である。十九世紀末前、ロシア商人は滿洲各市にその根據を据ゑ始め、結局同地方及び朝鮮はロシア支配下に陷らざるを得ないことが看取せられた。一、九〇一年ロシアは拳匪の亂を機會に牛莊支配の爲め相當の陸軍を駐屯させた。同年又ロシアは支那東方鐵道（東支鐵）を開通せしめ、その經濟的勢力は鑛山その他の爲めの資金融通機關として露支銀行を設定した結果、著しく强化せられた。その後更に附屬銀行がロシアの石油、砂糖販賣の爲めに設立せられ、他國人が全く支那內地から排斥せられて居る間にロシアの商人は到るところに橫行し、ロシアの資本家は鑛山を開き、製粉工場を建築することなどに忙はしかつた。又ロシアの商人等は石油の支那輸入に關して特惠國人としての取扱ひを得、ロシアの石油輸入に對しては無稅であつた。その結果、アメリカの牛莊における石油發賣高は一、九〇一年の三、一七二、〇〇〇ガロンから翌年の一、九〇二年には六〇三、一八〇ガロンに減少し同時にロシアの製粉賣捌人はその頃までアメリカの供給を受けて居た支那市場を奪取した。ロシア

はその間にも繰返し繰返し各國――勿論支那に對してでなく――に向つて秩序が立ち次第撤退するであらうことを保證した。各國何れもロシアの滿洲占有に對して嫉視、疑惑を有したことは言ふまでもない。しかし占領軍隊の維持は永久不安の狀態に陷るゝ確實な手段であり、軍隊を留めて置いて何時ロシア側保證の撤退實行を見るか曖昧な問題であつた。斯くて遂に最も利害關係の密接な日本は堪へ兼ねてロシア軍隊の撤退に關し、確實な時日の宣明を命じた。一、九〇二年日本とイギリスの同盟は日本をして自信を以て斯かる命令を發せしめ得たのである。日本、ロシア間の交渉は爾後六ケ月間繼續した。その間ロシアが戰爭の準備をして居たことは明かである。彼れ若し今少し好い機會をねらつたならば、又一層の愼重を期したならば、一層善くその力を試し得たであらう。しかし尙だ微妙な經濟事情があり、前記揚子江（Yolu）溪谷の木材問題があつた。この木材資源たる大森林は朝鮮の追放皇帝からロシアに讓與せられたもので、當時皇帝は京城におけるロシア公使館に保護せられ、材木はロシア人廷臣ベゾブラゾーへ讓られたものであつた。一、九〇三年ロシアの官立木材會社は木材商として結成せられ、皇帝、皇后その他その友人連が株主であつた。日本は戰爭開始と共に外交的遮眼革として駐屯軍を呼び寄せた。戰爭は一、九〇四年から一、九〇五年まで十八個月に及び、日本の大勝利を以て終つた。ポーツマス條約は朝鮮における日本永久の利益を承認することと爲つた。しかし朝鮮そのものは獨立國として存置せられ、日露兩國民は滿洲を撤退

することと爲つた。ロシアは旅順港の租借を日本へ移讓し、又遼東の租借も同じく日本へ移讓し、サガレンの南半部がこれ亦日本へ割讓せられた。滿洲、朝鮮から後退したロシアは次いで黃海への南方航路を求め――蒙古への通路なので、殊に蒙古の所有はロシアをして更に北京への通路を得せしむるものであつた。ロシアの商人達はコサック兵と共に蒙古へ流れ込み始めた。そして一、九一三年までに同國の西部は事實上ロシアの保護領と爲つた。勢ひロシアの商人に對しては特殊の權利を承認せられた。しかし支那の主權も依然承認せられた。

日露戰爭における帝國主義者の性情は廣くロシアに在つて諒解せられたが、その結果から戰爭そのものは尙だ不人氣であつた。そしてロシアの蒙つた大敗は如何してもその不人氣を償ひ難かつた。事實戰爭は一、九〇五年から同六年の間における立憲上の大爭議を惹起した重大な事實と爲つた。その結果官僚は再び勝利を見せた。しかも自由黨勝利と見えたその瞬間、イギリス及びフランスからの國債が皇帝の勢力を回復した。そして偶然國債はイギリスをしてフランスに接近せしめ、又イギリスをしてロシアにおける皇帝の統治に對し、決定的興味を感知せしめた。イギリスとロシアとの間における重大なる一致を見るに至つたのはその直後のことである。殊に右重大な一致に伴ふ他の重大な一致の結果は、トルコにおける全獨主義の脅威及び中亞におけるその脅威であつた。

一、九〇七年英露協約に依りペルシヤ、アフガニスタン及びトルキスタンにおける兩國の蝟齬が極

めて親善的に解決せられた。（一）ペルシヤに在つては十九世紀中、ロシアは南方に動向を見せて歩一歩ペルシヤの後退を餘儀なからしめ、ペルシヤはロシヤと印度洋との間に孤立した。即ちロシアは一、八九六年からペルシヤ殊にその北部における支配勢力と爲り、イギリスは印度への航路に對して等しく支配勢力と爲り、その南ペルシヤとの通商に就いて、等しく亦支配的であつて、南東から次第にペルシヤを壓倒した。そして一、九〇〇年に及ぶとロシアの財政家はペルシヤの爲めに二、五〇〇、〇〇〇ポンドの國債を成立させ二年後同國資本家が有利な讓渡を受くると同時にロシア商人の爲めに『惠まれた國民』としての待遇を受けしむることと爲つた。右ロシア資本家の有利な讓渡と謂ふのはペルシヤ北西方面に在つて道路開通の建設を許容せられたのであり、一、九〇七年全國を三地區に分割して友誼的に抗爭設定の協約を結んだ。同時にロシアは北方をその特別な勢力範圍として、イギリスは同じく南方を夫々享有し、第三中立の地區として兩國間の緩衝地位を用意した。ロシアは尙又イギリスのペルシヤ灣における特別の利益を承認した。

一、九〇八年ペルシヤの立憲革命の後、ロシアはペルシヤの北部地方にその軍隊を駐屯せしめて居ることが明かにされ、一、九一二年から同一三年の間にペルシヤ政府はロシア及びイギリス財政家から新國債を契約した結果、益益外國支配下に陷つた。即ち一、九一三年には兩國資本家に對して鐵道讓渡及び鑛山開掘の權利讓與の契約に調印し、その年ロシアはペルシヤにおける外國貿易の

三分の二を享有するに至つた。その餘は當然イギリスのものである。（二）ロシアの南方に對する發展はペルシヤに取つて限局せられなかつた。又ロシア自から斯かる制限を加へなかつた。外交に依り、又必要な場合兵力に依つて十九世紀を通じ西部トルキスタン占有を完成し、インドの安全上イギリスの恐慌を惹起した。特に一、八九五年ロシアがアフガニスタン、チベット間のパミール、ブラトールに對して優越な地位を得た時、一層甚だしかつた。事實ロシアは斯くてインドの北西部を伏瞰する地位を獲たのであつた。一、九〇七年の條約はアフガニスタンにおいてイギリスと同樣の商業貿易權を承認せられたのであるが、唯アフガニスタンの政策に關して、決定的發言を行ふのはイギリスと云ふことに爲つて居た。しかもロシア、イギリス兩國ともアフガニスタンの一部を占領若くは併合することのないやう協定を遂げてあつた。

それは兎も角極東に在つて日本の爲めに挫折せしめられたロシアは、南方海上への進出に就いてイギリス側で停止を呼ぶのを發見した。にも拘らずアジアにおけるロシアの勝利は、既に廣大なる地域に亘つて居た。實に六百萬平方哩に及ぶ帝國を形成して居たのであつた。しかしその價値は當時甚だ印象的ではなかつた。唯トルキスタンの二割だけは開拓せられ、シベリアの穀物平野はその全領域と對照して、必らずしも重要ではなかつた。尙ヨーロツパ・ロシアとアジア・ロシアの全貿易額は一、九一三年二六、〇〇〇、〇〇〇であつた。しかし價値そのものは斯く少額でも將來の繁榮は

殆ど全計量以上に及ぶであらう。戰前ロシアの農夫は一年二萬の割合でシベリアに移住して居たのが、生産穀類の量は大に速かに增倍した。シベリア、トルキスタン兩方とも鑛物の豐富な貯藏地である。鐵道も次ぎから次ぎに延長せられて居るので、一、九〇三年橫斷シベリア線はモスコーとペトログラードを連結、更にウラディオストツク、旅順、北京各地を結びつけた。そして他の大幹線は支線を以てトルキスタン及びアフガニスタン並に新彊を連ね、更に他の支線を以て特にペルシヤにおいて蒙古への延長を計畫中であつた。鐵道線路構築の重要味は到底計り知ることは出來ない、現に鐵道は正に貿易の動脈、帝國の筋肉と呼ばれた。一、九〇八年オーストリアのボスニア、ヘルツエゴヴイナ併合はトルコとセルヴイアほど緊切でないまでも、ロシアに影響するところがあつた。これより先き一、八九七年バルカン問題と併せて、支配上の意見合致したロシアは、ボスニアを併合せんとするオーストリアの希望を否定した。一、九〇三年マセドニア論議中、問題の復活を見るには至らなかつたところに、その難澁さを看過することは出來なかつた。ロシアは唯頑强にオーストリアの希望に反對することはしなかつた。同國の求むるところは好意的中立に對して先方の返報を欲しいと云ふのであつて、即ちダーダネルス問題の再開欲求に對してオーストリアの支持を得たいと云ふのであつて、勿論ロシア側に有利に解決したいのであつた。ロシアの苦痛はスルタンの所有と戰艦の通峽に對してダーダネルス地峽閉鎖の勢力を行使し、黑海におけるロシア艦隊の安

全を保したいのであつた。ロシアの艦隊は黑海が猶ほ島嶼の湖水の如くではあり、しかも黑海内に在つては極めて有力なものであつた。日露戰爭の結果、ロシアは國内不安の爲め、オーストリアではロシアに對して實際上、豫想上何等の義務責任をも考へず大膽にもボスニア、ヘルツエゴヴイナを併合すべく敢てした爲め、夫れ〴〵の弱味があつた。そしてオーストリアの行動はロシアとセルヴイアとをして同一陣地に誘はしめた。ロシア外相イズウオルスキーは十二月二十四日セルヴイアブルガリア、モンテネグロに對して、彼等共同の利害關係に就き、相協同結束すべきことを言つた。事實戰爭勃發の危險があつたのであつた。しかしそれを防止する種々の事實も錯綜した。而して敵對心を防止したのは『冬』であつた。ロシアの軍隊は解隊せられ、何等準備するところもなかつた。ロシアの同盟國は單に道德的な支援を申し出でたのみなのに、一方ドイツでは必要次第、軍隊を以てオーストリアを擁護する氣勢明かであつた。しかしロシア及びセルヴイアはドイツ、オーストリアの如く爾く强固に相結合して立つ望みはなかつた。一、九〇九年三月ロシアはセルヴイアの最善政策は結局運命へ低頭平身するにあるであらうことを決定した。ドイツ仲介の結果、ロシアはオースリアの行動に對する反對を引き込めた。ロシアは又これ以上非オーストリア示威又は宣傳を默許しないであらう嚴肅な約束をも爲さしめられた。ロシアの全スラヴ主義者に取つてドイツの脅威に對するこのロシアの態度は卑下した食物の悲しい食用とも見えた。斯かる屈辱を繰返へされ

た何に對して自からその確乎たるところを持する爲めに、ロシアは軍隊を再編し、戰線への鐵道を、建設し、概ね準備を整ふるところあらんことを努め始めた。ドイツの脅威に對するロシアの後退は協約の弱味を示し、同盟國側において、ロシアに對する苦笑を禁ぜざらしめた。のみならずこの感情は一、九一〇年十一月ロシアがポツダムにおいてドイツとの協定を行つた際、一層强化せられた。この協定は兩國間に一般的關係を取扱ひ、又特にペルシヤ方向に建設中の鐵道に就いて考慮したものであり、翌年一、九一一年八月の交渉においてドイツに對しペルシヤルにおける通商及び鐵道に關する大讓與を約した。自然中央アジアにおける同國の計畫に就いて一層進展の道を開いたものと言ひ得る。右交渉の際、ロシアが飢餓の爲めに困窮して居たことは輕視すべきでない。

一、九一二年最初のバルカン戰爭が勃發し、直ぐに第二の戰爭が勃發して南方スラヴの希望を、又オーストリア、ドイツ進行の意氣を覆へしてしまつた。そしてブカレスト講和後、ロシアとオーストリアとは平和的にその軍隊を留むることに一致した。ドイツが一、九〇八年から翌九年までと同樣、平和政策を適用すべくロシアを餘儀なからしむるやう推行するに就いて、祕かにロシアの勢力を算定したであらうことが多分に想像せらるゝ。その際オーストリアはバルカンにおいてその意思を自由に行使することが出來たであらう。しかしドイツは誤算した、一、九一四年ロシアはその創痍を回復し、天晴れ前年の一般的再武裝に對して適當にその仲間入りを爲し、その永久平和の兵

力として一、七六〇、〇〇〇に增員方法を講じた。即ちロシアは海軍擴張案を提出し一、九一五年までにバルテイツク海における積極的活動のドレッドノート艦四隻を建造することとし、一九一六年から同一七年までに更に四隻を加ふる計畫を提案した。勢ひ黑海には他の列國の何れよりも優秀な艦隊を有するわけと爲つた。これ等の軍備案は一部全ヨーロッパに流行した再武裝に依つて決定せられたものであり、ロシアの眼から見て一層重要なことはバルカン戰爭後、トルコ軍隊を再編成すべくドイツがその軍事使節を送つて居たことであつた。トルコはこの事に依つて軍事目的上、中央ヨーロッパ諸國と決定的に一緒に爲つたことを示すものであり、ロシアからこれに對して强い反對が起つた。コンスタンチノープルはドイツと爲りつゝある。しかもロシアの市ではないのである。海峽のトルコ支配は或は默認し得るかも知れない、しかしドイツの支配はロシアの野心に對する直接の否認を意味する。トルコは永久にドイツが强固に建築したもの以外の何物でもない。ロシアは戰ふことはないであらうと云ふ、ドイツ及びオーストリアの期待は果して實現しなかつた。オーストリアの動員はロシアの態度を見て數時間內に發令せられ、列國の何れもがヨーロッパ全體の衝突を期待するところもなかつた。しかし大火事は遂に全歐に擴かつた。

六、フランスの復興

普佛戰爭に結果する政治上の變化は何等フランスの經濟的發達を抑止するところなかつた。そして第三共和國の優秀な政治家達は本質的に資本家の性格であり、又その政策を保有した。即ち彼等の第一に考慮するところは產業と商賣との振興であり、事務繁昌の保證であつた。斯くて一、八七九年から一、九〇四年の間における素敵極まる道路幾千哩の擴張と共に、新運河は修築せられ、新鐵道は敷設せられ、港灣はダンギルク（Dunkark）において、ディエソペ（Dieppe）において、ルーアン（Rouen）において、ナンデ（Nantes）において、ボルドー（Bordeaur）において夫々深さを加へられ、ル・アーブル（LeHavre）と聖ナゼール（St. Nagare）に在つては立派に新らしいものが築造せられた。下附金、奬勵金、關稅、銀行、保險等々の手段、農業專門學校の許可に依つて農務大臣は根本的產業の奬勵に成功し、產業においては一層の大濶歩を見せた。工場における機械數も著しく增加し、能率の四倍ほどの增進を見せ、石炭の採掘商は五割を、鐵鋼の生產高も倍以上の增大を見せた。生產物に對する主要市場は國內に存在しながら輸出物方面の發展も小少ではなかつた。しかし、フランス資本主義は第一に財政的であり、その植民地における政策は獨占的であつ

て、保護領に在つても同じであり、剩餘金錢、資本に對する數多の企業を得んと維求めたのもその爲めである。

一、八〇〇年代の初めフランスはその國內の變化と相應じて外交政策に乘り出した。同國は之れより先き既にエヂプト（Egypt）、スエズ（Suez）運河における財政的興味を認識して居た。しかもフランスが先づビスマルク（Bismarck）の政策に致されたヨーロッパにおける自國の孤立に就いて、その慰藉を求めたのはアフリカにおいてゞあつた。即ちフランスに取つて最初の重要問題はチユニス（Tunis）においての事であつた。同國は既にアルゼリア（Algeria）において自からその地位を確立したので、進んで又東方に向つて發展の野心があつた。假令チユニスに在つて地歩確立を爲し得ても、これをイタリーに比べて餘りに小であつたからで、列國は何れもフランスの求むるところに同得した。ビスマルクは一、八七八年ベルリン會議において、イギリス代表ソースベリー（Salisbury）に對し、ロシアがコンスタンチノープル（Constantinople）を取り、イギリスがその返報としてエヂプトを取るべきであるならば、フランスとしても何等氣を動かすところも無い風を示さうとはしないであらうし、更に人は同國にチユニスを與へ、又シクア（Syria）を與へないとも言へない——と言つたと傳へらるる。イギリスは容易にチユニスに關する前記の暗示に同意し、唯フランスはイギリスのサイプラス（Cyprus）取得問題に就いて、等しく深功なるべきであること

が唯一の約束であつた。善いはづみは他の善いはづみと爲る。以上の諸暗示に基づく行動の好機會が一、八八一年チュニスへの一蠻族の行動が當該地域に侵入すべくフランスにその許容を與へた時に正に到來した。即ちその國家に對するフランスの防衛を承認すべく州知事を餘儀なからしめたのがそれであり、フランスは併合の意思を表白した。但し住居人の忠告を通じて支配を行ふと云ふのであつて、右忠告に對しては州知事も服從を強いうること云ふのであつた。フランスの支配上におけるこの行動は列國との關係にも極めて重要な効果を有し、最も容易なものながら同時に最も贅澤な勝利として記錄せられて居る。この事はイタリー（Itialy）とドイツ（Germany）、オーストリヤ（Austria）との同盟における決定的事實に相違なかつたとは云へ、爾來イタリーとフランスとは一世紀の間、敵對關係を持續したからである。

フランスはアフリカ（Africa）の他の部分に在つても、侵略的政策を推行した。特に東アフリカにおいては前後二十年間の爭鬪後、ソマリランド（Somaliland）の一部が一、八八四年獲得せられ、これを地圖に就いて一瞥しても小さいながら、前線的價値の輕小でないことを了解し得べきであり、アデン（Aden）灣の頭部に位置し紅海とスエズ運河への出入上、イギリスの屬領と正にその重要味を分つものと言はなければならない。エヂプトの占有、スエズ運河の支配上、イギリスとフランスの感情圓滑でなく、殊にフランスに取つて前記の事情が苦々しいことに想及するとき、一層重大

である。若しそれマダガスカル（Madagascar）に關してはこれ亦、フランス側でその國旗を樹立しよう企圖があつた。しかも十九世紀に至るまで何等面倒もない成功であつた。フランスが同地を占領したのは一、八九四年で直ぐに防衛を強化せられ、一、八九六年便宜な騷がせ誘發の方略を發見、それを實行した揚げ句、遂に決定的に同地を併合し了はつた。大冒險家ド・ブラッザー（De Brazza）はコンゴー及びウバンギ河の北部においてフランスの爲めに重要なる仕事を成した。そして一、八八四年フランスはコンゴー（Congo）の國際協會との間に協定を遂げ、フランスは右協定に依つて一帶の地域買收に關して最初の要求を全うした。次いで一、八八四年十一月列强のベルリン會議が開かれ、國際協會に對してコンゴー國の爲めに疎水した全地域を支配の權利を與へた。しかしその爲めに土着人をして北方フランスの爲めに好意を表せしむるに至つた。次ぎの年二月フランスの國境が設定せられ、二十五萬七千方哩のコンゴーの土地所有がフランスに歸した。

更に西方に在つては發展擴張政策がこゝでも同じく推行せられたので一、八七九年から同八一年の間において、既にセネガール（Senegal）から上部ニゲール（Upper Niger）まで商賣區域が擴大せられた。自然フランス側の活動と成功とが同地域におけるイギリス商人の嫉視と憎惡とを惹起した。それ等のイギリス商人こそ一、八八二年イギリス、アフリカ國立會社の結成に責任ある商人であつたのである。このイギリス側の會社は漸次にニゲル溪谷に發展を遂げ、フランス側の戰爭と對

峙して榮えて行つたので、爾來兩國の商賣競爭は五十年若くは同以上繼續し、双方の平和關係を危險に陷れたこともあつた。即ち一、八九七年フランスが下部ニゲル（Lower）のブッサ（Bussa）を占領した際の如きは特にさうであつた。一、八八五年の締結に係るドイツ、フランス並にベルギー國間の條約は西部アフリカの親睦な國境設定に就いて彼等を利し一、八九二年イギリス・ニゲリアとドイツトーゴーランド（Togoland）との間における狹隘な土地ダホミー（Dahomey）はフランスにおいてこれを占領してしまつた。海面と併せてアフリカの內部所有がフランスの植民地と爲り保護地と爲つたのは、その上のことである。しかしフランス西部アフリカはその他の關係において有價値である。即ち各植民地はフランスに對して果實、ゴム、象牙、棕櫚油、マホガニ（Mohogany）（中央アフリカの所產）を送り、何れも多く專賣政策の下にフランスとの商賣を行つた。現に前記各所產の返報としてフランスからは紡績、織物、燒酎、その他種々の製造物を買ひ取つた。尙又フランス帝國主義に取つて重要なことは、彼等が資本輸出の機會を得たことであつて、フランスの財政家は必然西アフリカ銀行を設定し、鐵道敷設、電氣擴張、產業發達の爲めの國債を造つてこれを右銀行の經營に資した。一年千六百フランが西アフリカ駐劄軍隊の爲めに消費せられ、利益收穫の爲めにフランス財政家、企業家等の利用に供せられた。

東南アジアに對して亦同じである。隣接地域に對する侵略の足場若くは據點としての一地方又は

一國の所有が、如何にフランスの膨大を助けたか枚擧に遑はない。一、八六〇年代フランスは交趾支那（Cochin）を占有し、カムボディア（Cambodia）に對して防衛線を張つた。又一、八八二年にはフランスは安南における統治權を擴大すべく決心し、界隈一帶を橫行する海賊の團結を束縛する目的を以て軍隊を送つた。そして右遠征の結果、侵略地域に對する防衛の擴大と爲り、國家に對して豫ねてその主權を行使した支那は、その領土防衛の爲めに武器を執り、一、八八五年まで遂に平和終結を見るに至らなかつた。しかもフランス軍隊の勝利は同國に對する支那の宗主權を認むる傍ら、フランスの防衛權を獲得した。しかし一、八九八年に至りフランスは東京灣（Tonking）の海岸一帶フランス勢力の最後の擴大を承認する法案Kwang Show Wan（廣東灣）を得た。斯くてフランスは南支那におけるる確實且つ永久な足場を獲得したのである。初め侵略的帝國主義はフランス本國に在つて膨湃たる反對を受けたのであつて、帝國主義最初の大宣傳者ジューレ・フェルリー（Jules. Ferry）は明かに唯彼れ自身敵を造ることに成功し、次いで事實上、官憲からそれを驅馳した。即ち各部とも政策に反對的に統一せらるゝかの如く見えたので王黨及び僧侶黨は國家の消費と課稅とを增加するのみに過ぎないとの理由で孰れも反對であつた。急進派すらもイギリスにおけるマンチエスター（Manchester School）派同樣に同一理由の下に反對した。畢竟國內において必要な改革より却て浪費をそゝり、又人道主義に惑溺するものに過ぎないと云ふのである。この

急進派の指導者が「タイガー」クレマンソー（Clemanceau）であつたことを記するのは興味ない事ではない。しかし時經るに從つて各方面の反對者がそれぞれフランスの新政策に包含せらるるに至つたのも時勢である。結局フランスも準備中の衝突の爲めには既に國民を掃蕩せる永久の增大と永久の快速化とに對して、抵抗を永續することは出來なかつた。そしてその間ロシアとの一層親密な關係が增進し、一、八八七年ベルカンにおけるロシアの憂慮は本來中央ヨーロッパの狀勢に基づくところであつたが、フランスとの同盟に就いて夙にロシアの用意をそゝつた。ロシアでは思つた、フランスとの同盟は當然ドイツをしてライン（Rhine）監視に忙はしからしめ從つてロシアのベルカンに對する手腕を拘束牽制せしむる餘裕なからしむる爲めに、旁々ロシアのヨーロッパ一般問題の上に及ぼす權利と勢力とを增大するに相違ないと、同時にフランス側に在つても樞要の地位に在るブーランゼー（Boulanger）將軍を始め各少數ながら尙且つ勢力ある團體間において、ロシアとの同盟を願はしいもの、必要なものとさへ主張するものがあつた。偶ま四月に入つてシュネーベレ（Schnaebele）事件なるものが突發した。事件はドイツ代行者に依つてフランスの警察官吏二名が逮捕せられたもので、それを機會及び理由として佛露兩國において反獨感情が擡頭した。そしてこの感情はイタリーの三角同盟離脫に先んずること四個月前の失態であると云ふ理由から一層深長であつた。尙又スペッジア攻擊の企圖に基くツーロンにおける海軍編成の進行中イギリス艦隊

はイタリー防衛の爲めにこの海面に廻航した。實に一、八八七年のことで、フランスはロシア以外の各列國を離間すべく種々工夫するところがあつた。何れもロシアとの同盟を密接ならしめん爲めの理由に外ならない。數ケ月の日時は右戰舞乃至煽動の爲めに經過した。フランスの新陸軍法案と王黨派ヤマ師ブーランゼーの成功とがフランスとロシアにおける非ドイツ分子の希望を敎唆した。事實ブーランゼーの失脚がその企圖を基礎とする希望を鎭靜し去つた。しかしロシアとの親密な統一を行はうとする新たな別の理由は同年三角同盟の强化に依つて却て用意せられビスマルクは早くその成立するであらうことを洞見した。即ち彼れはロシアとの新理解を求むることに依つてそれをそらすことに努めた。しかもビスマルクは失敗しながら彼れの努力は新皇帝ウイリアム二世の爲めに一層絕望ならしめられた。ドイツ陸軍及び海軍に對し一、八八八年皇帝の行つた演說は他の列國側に對し準備的手段を勵ましたからである。政治的全狀勢が斯くてフランス、ロシア同盟に取つて好都合であつた。そして決定的經濟上の利益が急速に彼等の友誼に對する確實な基礎を用意せしめた。

一、八八八年の春、ベルリンの財政家達はドイツの各家に依つて保有せられた、ロシアの抵當物の夥しき數に上つたことを見て吃驚した。相當の價額低減を示した大賣出しでもあつた。ロシアは大難澁と條件上の大讓步を忍ぶならばベルリン及びフランクフオルト（Frankfort）において十

分の資金を得ることが出來た。フランスの資本に取つては正に待望せられた機會であつたのである。一、八八八年十月パリの財政家ホスキエは四分付五億フランの國債浮流を整理する爲めにセント・ピータースブルク（St. Peters burg）を訪問するやう秘密の招請を受けた。右は一、八七七年賣出しの五分利國債借替の爲めであつた。ホスキエ（Hoskie）は先づパリに在つて浮動國債の整理に成功し、それが長期國債發行の始めと爲つた。即ち一、八九四年まで四十億より少くないフラン國債がパリにおいて成立、何れも主として鐵道敷設、鑛山開掘及びフランスからの武器購入に使用せられた。そして何れもアジアにおけるロシアの發展上必要な企圖を繼續せしむる爲めにロシアに役立つた。フランスに對しては又財政的資本の輸出に對する新分野を開拓し、同時に冶金術産業の新市場を開いた。更に又ドイツに反抗してフランスとロシアとを結ぶ連鎖の強い一連を形成した。しかもドイツの最軟弱な前線に向つては一層有力なロシアがその巨大な武裝を施して居たのであつた。一、八九一年軍事的協約がフランス、ロシア兩國間に成立した。協約は特にヨーロッパの問題に限ると云ふことに爲つて居ても主として兩國及び大體ヨーロッパ双方の重要事件を對象とするものであつた。一、八九五年日支戰爭後、日本に對する干渉に就いてドイツとフランス及びロシア兩國と合流した。ヨーロッパ各國は日本の平和條件が全極東の安全と自由とを脅威することを主張した。彼等は日本に對して遼東還付を余儀なからしめた。就中ロシアは日本に對する支那側の陪償額

に對してその半額を支拂はしむる爲めに四分利付四億フランの國債募集を斷行した。國債は主としてパリにおいて募集せられ、延いて又フランス、ロシアの結合を助けた。

これ以外の事件はその後數年間におけるドイツのトルコにおける進展であつた。しかしその間フランスは國内における紛爭の爲めに殆んど囚へられ了り、他を顧みる遑もなかつた。ドレフス（Dreifus）事件、非僧侶主義（anti Clericalism）、非軍國主義の所見に同情したアンドレー（Andres）將軍殊に危險にも訓練を怠慢した將軍は軍務大臣に任命せられ一、八九九年から一、九〇六年までフランスは事實上、戰艦の建造を止め、平和政策並に個人的造船業者、兵器製造人に對して深刻な結果を與へた軍備縮小を行つた。そして一、九〇八年には一萬千二百二十三件より少くない不逞反抗事件が陸軍及び海軍に起つた。勢ひそれ等の國内紛爭事件は國際問題に對するフランスの發言主張を妨げ、イギリス、イタリーとの間における平和確立の爲めにその時間を費消した。一、八九八年イタリーとの間における關税戰爭中止の目的を以て通商協約を結ばしむるに至つたのはその一例であり、四年後に至つてデルカッセ外相はイタリーとの間における意見相違殊に地中海問題に就いて不一致であつた協定に對して、遂にイタリー側の署名を行はしめ、親善の形式の下に問題を設定することが出來た。それ等の協定は三角同盟（Triple Alliance）の効果に對して大打撃を與へ、一、九〇三年十月にはイギリスとの間に同様の協定が成

立し、イギリス、フランス兩國は意見相違の場合、ヘーグ（Hague）裁判に訴ふると云ふ——英佛協約の結成に關して重要な一歩を進むることと爲つた。次いで一、九〇三年六月には大統領ルーベ（Loubet）と外相デルカッセ（Delcass）とイギリス外相ランスダウン（Lansdown）卿との間にイギリスのエヂプト占領に對し、又フランスのモロッコ要求に對し、フランスのニューフアウンドランド、ニューヘブリッヂ（New Hebrislge）海岸問題に對し、又そのニューカレドニアにおけるフランス人犯罪者に關し、豫ねてイギリスの擁護下に在つてフランスの爲めに脅威せられたシヤム（Siam）の地理的保全問題に關しイギリス、フランス兩國間の大々的難問題を討議した。恰も日露戰爭の勃發が兩交戰國間の親善な同盟關係を脅かし、一層確實ならしむる必要を痛感せしめた。一、九〇四年の協約に依つてフランスはモロッコにおけるその最高要求に對してイギリスの承認を得、チヤド（Chad）周圍の或地域を獲得し、サハラ（Sahara）とスーダン（Sudan）とから海上へ打ち擴がる他の一角を獲たのであつた。しかも最も重要なことはエヂプトにおけるイギリス最高位の承認であつた。各國それぞれモロッコにおける最高位を認め、又エヂプトにおける同樣の最高地位を認めたことは、相互に政治的現存狀態を維持することに意見一致したものと記憶しなければならない。同時に通商上の企畫と權利とに對して機會均等を認めたものと記憶しなければならない。少くとも紙上に在つて然うである。

前記英佛協約は近代の若くは戰前（第一次世界戰爭）の外交上、最も重大なる事件であり、フランスをしてドイツとの關係を强化し、又佛露關係に對しても大なる、有勢な影響を及ぼしたものと解せなければならない。同協約は又イタリーをして自國の國際的地位を再考せしめたものであり、イタリーは爾後ドイツ及びオーストリア兩同盟國に對してよりも實際上、政策上において協約國側に接近した。同時に彼れを後援するイギリスの同盟力に勢いを得て、フランスはドイツとの抗爭を準備すべく開始した。その海軍競爭が大戰爭（第一次世界戰爭）勃發に至るまで繼續し、一、九一四年フランスはドイツの一〇、六七四、〇三三ポンドに對して一〇、七三〇、五二〇ポンドの艦隊建造費を可決した。即ちフランスの主要兵備、造船事業會社の利益が一、九〇八年から一、九一三年までの間に正しく二倍した。そしてフランスはその間一、九一一年完成すべき砲手の完全な再組織を實行した。尙一、九一三年には他の野砲增設を決定した。旁々協約は何等フランスの武裝負擔を輕減しなかつたのみか、却て未曾有の武裝を鼓舞し、それが又右協約の特徴とも爲つた。それにも拘らず協約はモロッコ（Morocco）におけるフランスの勝利に相違なかつた。荒野における蠻族の不和若くは侵入がフランス・アルゼリア（Algeria）國境を不安に陷れた結果、フランスはモロッコ問題に關する干涉の口實を得た。しかもフランスは一、九〇一年モロッコにおいて平和的侵入政策を積極化した。（この際フランスのモロッコ統治者アブヅル・アジズ（Abda Aziz）はフランス銀

行との間に三十八萬ポンドの公債を作つた）又イタリー、スペイン、イギリスとの間における幾多の契約に依つて直接モロッコとの關係はなくとも、フランスは國を擧げて守護の地位を獲得した。その政策はドイツに在つて深甚な感情を惹起した、ドイツ自身亦モロッコに對して相當の利益を有したからである。一、九〇五年斯くて危機突發し、調停の結果、一、九〇六年アルゼシラス（Alge-ciras）條約が成立した。この條約に依れば、警察制度と國立銀行とが初めてモロッコに創設せられ課稅が改革せられ、公共事業も設けられ、その間兵器密輸入及び不合法取引きは强硬に制抑せられ結局フランスの有權的地位とその平和的侵入政策とを承認するに至つた。

次ぎの年フランス軍隊はモロッコに上陸した。口實は例の通り領內の秩序を恢復すると云ふのである。一、九〇七年八月——即ちフランス軍隊の上陸十三ケ月後モロッコ人の反對に關せず、その駐屯は尙止まずドイツ側に在つても亦フランス側政策に關する多少の例證を有しながら反對を表明した。即ち一、九〇八年九月カサブランカ（Casablanca）におけるドイツ領事はフランス軍隊からの逃亡兵又は逃走船員を保護することに關して告訴せられ、第二の危機が復た起つた。しかし問題は和協的にヘーグ裁判に依つて調停せられ、一、九〇九年二月八日の契約が双方の關係改善の約束を與ふるものかの如く見えた。しかし調停と見たのは僻目であつた。一、九一一年危機は再發した。即ち前記一、九〇九年二月の契約はモロッコの獨立を認めたものと同時に政治的にモロッコの

特權を、經濟的にドイツの特權を認めたので、フランスは忽ち自から惡い取引きを行つたものであることを感知した。商取引きは有利ながら產業は只管法律と治安とに依賴せざるを得ないので、現在調停下に在つてはフランスはその敵視する相手國がその收穫を得て居る間に法律乃至治安維持上の勞苦と經費とはフランス自からこれを供出しなければならない。それに反してドイツはモロッコ軍隊を選拔しつゝ苦情を續け、フランスは契約の第一項たるモロッコ獨立を破壞するものであつた。一、九一一年四月フランス軍は隣接地における蠻族の暴動を抑制所罰する爲めであると云ふのを表面の口實にその軍隊をフェッツ（Fez）へ進出させた。するとドイツはこの行爲をモロッコ分割の前兆と解し、當然一、九〇四年四月の英佛宣言秘密條項に依るものと思考した。尙右宣言はモロッコに對するフランスの保護を設定し、スペインに對して時機到來次第、その北方海岸を占有せしむることを豫期したものと考へた。この關係から特にスペインがイギリスのブローカーとして唯一國に利用せられつゝあつたことを記するのは重要なことである。しかし危機は尙平和裡に經過した。そして一、九一一年十一月前記秘密條項が公表せられ、條約はドイツがこれまでの各閉鎖港を公開する代償としてフランスの守護を認むること、又フランス・コンゴー（Cibongi）の廣大な地區讓與を承認した。コンゴーの廣地域讓與は併せてウバンギ河に亘り、カメルーンへの通路に當る地域であり、ドイツへの大讓步であつたことは勿論である。モロッコの地理的地位は南太西洋、地中

海へのルートであり、唯一の且最大の價値を有して居る。即ちドイツの利益は或はモロッコにおいて見られたかも知れぬが、三角協約に對して回教國を起たしむる西方の挺子枕であつて、殊にその鐵坑に豐かな點が重要である。一八七一年フランスとドイツとの間に新境界を設定した際、ドイツは不幸にも鐵床ロングウイ・ブリリーを兩分し、又フランス境域内にミュールズ・エ・モゼール（Meurtheet Moselle）の平野數マイルを遺棄した。右鐵床に關しては鐵鑛貯藏量に就いて一、九〇九年左の如く測量せられた。

ルクセンブルグ	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸
ドイツ	一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸
フランス	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸

ドイツ側貴顯がフランスの鐵產地において得た利益であり、又フランスから得られた重要なものゝ一なのに拘らず、ドイツはその增進する鐵の需用に對して不足であることを發見した結果、自然同國はモロッコの鑛山に就いて愛着した、勢ひドイツ、フランスの事業當事者はモロッコを繞りてこゝにも亦競爭を惹起した。一方シュナイダー（Schneider）、他方マンネスマン（Mannasman）と双方モロッコに在つて取り組んだことは能く人の知るところである。アルサス、ローレンの鑛業上の價値を挾んで彼此兩國の競爭を惹起し、又二十五年の間特に一、九一四年前再武備整調に就い

てフランス側が有利であつた主たる動機であつたモロッコを挾んでフランス、ドイツの競爭を見たのはこれが爲めであつた。しかも最後の審判を戰爭に訴ふべくフランス側の用意を輕速ならしめたのは、鐵鑛の競爭において得るところ多かつたからである。

七、イギリスの繁榮

イギリスの對外企圖乃至植民地經營は一、八八三年から一八九三年の間に年々七割四分づゝの增進を示した。そして一、八九九年にはこれ等の企圖によつて九千萬ポンドから一億ポンドの年利を獲得した。即ち當時の全國家歲入の殆ど十二分の一に當り、中流および上流階級全收入の四分の一に及んだ。勢ひ課稅せらるべき全收入は當時九億であつたと推定しなければならない。鐵道その他大資本を通じて尋常普通の獨立國家支配は、その實例をアルゼンチン、ポルトガルに見られた。他に注目すべき形象は物價下落の傾向が一、八九六年七年以來上昇の傾向と變つたことであつた。これは資本が一度にその比較割を增進、有利な海外雇用が發見せられて同時に勞働不安が國内の罪惡に氣もかけず、國外の交戰を鼓舞した爲めでもあつた。世界競爭の曉天來を認め、政治上の含蓄に

想到したのはベンヂヤミン・ヂスレリーであつた。彼れは後年『小英蘭』人に對して不熄の戰爭を行はしめ、その成功によつて古い平和政策と不干涉政策とを轉じて、虛飾的侵略的帝國主義たらしめ、新たな前進政策を以て遠隔の前線を指示した。地中海政策東方政策が一層自覺的に思慮深き帝國主義と爲り、ジョセフ・チエンベーレンの主義、政策として明快なる表現を發見せらるゝに至つたのもその後十年間のことである。彼れがその選擧區バーミンガムにおいて近代帝國主義の主義および實行を要約して、イギリスの鐵と鋼との利益確保で、これを中心とするにあると謳破したのは、彼れが自から選定した植民相を繼承した直後のことであつた。

スエズ運河の成就——一、八六九年はエヂプトに對する干涉の好口實を與へた。特にイギリスの部分に關してさうであり、イギリス、フランスの二重支配として知らるゝ制度を設定して、莫大なる國債の支拂拒否問題に就いて、イギリス側に種々の口實を與へたのも此の時であつた。そしてこの對外問題が國民主義者の運動をそゝつた。即ちエヂプト人の爲めのエヂプトと云ふのが、一、八八二年アラビア王興起の絶頂時であつた。イギリスはこの運動を粉碎し、エヂプトの一時的軍事占領を始めた。紛糾がスーダンで突發した。しかも回教復活派がスーダンにおいてエヂプト軍隊を擊破し、途上イギリスの將軍ゴルドンを殺害してカルツームを占領した。スーダンの回復がキツチエナー將軍の手によつて行はるゝまで、實に十九世紀の後までかゝつた。

チエンベーレンの植民地相當時の內閣繼續は外交關係の緊張重壓時代と恰も時を同うした。その第一の難題はギアナとヴエネジユラ間の境界問題でイギリスは當時の界以上領地の擴張を要求し、アメリカはこれをモンロー主義の侵犯であると云ふので、兩國間の文書交換が戰爭突發を脅威した。しかし事件はそこまでには到らず、委員を召集して結局イギリス側に有利な判定の下に解決せられた。右委員の召集に就いては英首相兼外相のソースベリー卿が豫め注意を與へ、イギリスの權利に對する偏見に囚はれず、飽くまで委員の決定に俟つであらうことを聲明した。

アジアにおいてもイギリスは敵對を助成し、ペルシヤにおいてロシアとの間に角突き合ひを演じて居た。既に一、八九〇年イギリスはペルシアにおいて煙草の專賣を許容せられ、帝國煙草會社を許可せられた。しかし後に至つてこれに對するペルシア國民主義者の不平があり、外人に對して經濟的資源を讓渡し、又政治上の支配力を讓與する交涉を撤回した。しかし會社への報償として帝國銀行から、五十萬ポンドの國債を起した。事實一、八九六年までにイギリスはペルシア政府の財政援助として妥當の利子に依り一、〇〇〇、〇〇〇ポンドの國債を融通した。ロシア國債も緊急な事務費として用立てられたのみならず、その後ロシア財政家を通じて國債を起した。

恰もアメリカとの關係緊張の際、有名なゼームソン襲擊が起つた。一、八九四年新たな積立金がトランスヴアールにおいて發見せられ、これ等の發見者がこれより先きその發見によつて、彼等の

郷土に對する注意を惹起した外地人若しくは外國人早期の散亂を期するボア人の希望に死の打擊を與へた。それ等外人とボア政府との衝突——既に早く尖鋭化して居た、そして遂に第二のボア戰爭においてその極に達し、從來より一層激化した。イギリスは海岸線を奪取してボアを海面から切離し、外來人は國家支配の爲めの鬪爭を新たにし、ケープ植民地の總理ローズは秘密の申込みによつて、ケープに近づいた。その秘密申込みと云ふのは、ローデシアの行政官ゼームソンを指導者として、武裝の攻擊を行はうと云ふのであつた。襲擊は全然防禦もなく活潑に行はれた。しかし內部の不同意の爲めに敗北に終はり、ゼームソンと彼れの一團は捕虜と爲つた。問題は重大であつた。

（甲）結局軍隊に俟たざるを得ないこと（乙）ボア側の擊退成功がドイツ皇帝からボアの首領クルーゲルへの祝電を發せしめたことである。このドイツ皇帝の行爲はイギリスにおいて强い怨恨を惹起し、その後イギリスとドイツとの離反の始まりとして記述せられて居る。

イギリスは南阿佛利加の二個國との戰爭の爲めに一世紀を要した。實にゼームソンの襲擊によつて直接軍隊に訴ふる前奏曲を奏したのが始まりであり、ブレスフオード記者はこの戰爭の原因を一節の文章に要約して次ぎの如く表明して居る。

鑛山所有者が心底から希望するところは安價な勞働で、彼等は選擧によつて政治的勢力を得んと努力する以外、何等他の目的はない。彼等の擧示する良政府は一年二百五十萬圓の割當てを

爲すやうな政府であらう云々。

事實若し可能的方法に依つて戰爭を批判するならば、即ちその結果、次いで又來る平和の條件によつて戰爭を批判するならば、眞實の總和は、丘地鑛山における混合奴隷に依るカツフイル（南阿の一種族）および支那人勞働者の安もの獲得、白人勞働賃金の引下げである。しかし一、九二二年三月には尙激烈な鬪爭があり、完全な納まりが付いたとは未だ言へなかつた。

しかし戰爭が若し南アメリカにおける利得者の意思を助成したならば、斯く明白に豫見せられなかつた結果を生じた筈である。ヨーロツパの感情は全くボア側に同情し、自由の爲めに正しく鬪ふ小さい人民に對する同情よりも、イギリスの憎惡と蔑視に一層强く刺戟せられた感情であつた。イギリスに反對して列强の一般的戰爭を提言するものさへあつた。即ち非同情的世間の眞只中にイギリスは孤立無援であつた。そしてその光輝ある孤立が世界的疎隔に終つた。

この事態の裡にイギリス政府は持するところ强く、前例のない巨歩を進めて、日本と同盟を結んだ。特に北支那における併合政策は日本とイギリスとを密接に結合させ、イギリスはその對外貿易に對する脅威の爲めに、日本は朝鮮に對する計畫に就いて、孰れもロシアの爲めに豫見せられたので一層密接になつた。イギリスとフランスとの關係はボア戰爭前も直後とにおいても、誠實にして堂々たる締盟國たるを失はなかつた。イギリスはエヂプトに對してスーダン回復に夢中であり、目

的はナイルの財源を支配し、ケープタウンからカイロまで擴大するであらう王權の夢想を實現するにあつた。フランスはスーダンからエヂプト軍隊を逸早く引揚げ、その統治における對佛要求を賭することを決心した。彼等はフランスのコンゴーからアフショダへ東進し、ナイルとソバートの合流地點においてナイル河の上流を支配せんとした。こゝで彼等は回復の試練として特に訓練せられたエヂプト軍隊の頭にキツチエナー將軍の在るのに會つた。問題は遂に一、八九九年の協定に依つて解決せられ、イギリス　エヂプトの境界が定まつた。右境界中にはナイル河上流の支配即ち事實上イギリスの支配を含まれて居た。

次ぎの數年間には佛英の間に大變化を生じた年であり、政治家達が論議して居る間に產業上商業上の大立物は、何れもそれと着取したのであつた。ボア戰爭中にあつてすら双方の新聞を通じて喧囂たる風評があり、一、九〇〇年パリにおいて商務家の會合があつたのに次いで一、九〇一年九月にはイギリス商務家の協議があり、協商に有利な決議が行はれた。そして英佛兩國相互の有利な商事を望むものであつた。英佛兩國の利害一致せず、協商困難な點もありはあつた。しかし双方とも排除し難き特殊の難點はなかつた。孰れも同盟を求むる理由――ドイツを憎惡して――があつたからである。急激に增大する產業上、商業上、軍事上のドイツの勢力が英佛兩國間の友誼を密接ならしむる必要を生ぜしめ、又その可能を感知せしめた。終に共同の敵を覆滅するまで――事實ドイツ

の經濟的軍事的勢力の打壞が英佛兩國間に種々衝突發生の信號であり、協商の起原と意義の確實な可能性を表示した。フランスの產業上の人達は久しくアルサス・ローレンの大富源を見て居た。實にドイツ人のポケットはその資本を以て滿たされて居たのである。イギリス人は同じくアルサス・ローレンの鋼鐵採取を見て居た。世界第一に手のかゝらぬ、そしてドイツの採掘に依つて稀有の採掘高を示して居るのを見た。イギリスはドイツが情容赦もなくフランスを孤立のまゝに棄て置いてドイツの生育する艦隊を眺めた。失つた領土を取り戻して、大なる仕事を回復する爲めには、再び國の勢力を得なければならず、明かに新たな、そして一層有力な一層頼りになる同盟國を得なければならない。即ちロシア以上のものを得なければならない。しかも近代政府は純然たる武俠的動機のみで動かすこと不可能なので、實質的に彼れを援助の理由を有する良き同盟國を得なければならない。

二重協商が早速嚴密な試驗に付せられた。一九五年から六年のモロツコ事件がその課題であつた。フランスの大臣デルカツセがイギリスからモロツコにおける有力者として承認せらるゝこと、彼れはスペイン、イタリーからも同樣の承認を獲得し、見えを張るつもりかしてドイツとの相談を一切除いてしまつた。その實ドイツは一、八八〇年フランスとの條約に署名した關係があり、尙モロツコの經濟問題に就いては相當重要な關係があつたので、肩を挫かるゝやうなことなく、問題は根

抵的にヨーロッパ政界を刺戟した。イギリスの本問題に關連するところは輕少であつた。しかし同國は眞心からフランスを支持し、事實決定的に軍事上の結論へ押しこまう肚であつた。そして同國は戰爭の用意さへして居た。しかもフランス側においてそれを防いだ。フランスは返報として石炭と鐵との慾望があり、自己の弱點に對する自覺があつたからであつた。ロシアの對日敗北——絶望的敗戰以來その自覺が强かつた。斯くてアルゼシラスにおける會議の結果、フランス側の支持は一九〇六年遂に調停成立、フランス究極の計畫は支持せられ、後年新たに勃發の原因となつた。そしてイギリスとロシアとは一層親善となり、同時に一、八五四年以來のボイコット後のロシアに對する英佛のロシア公債がロンドンにおいて一部引受けられた。これはフランス同盟の他の結實の一であり、『若しわれ等がフランスを抱擁するならば、われ等は更らにロシアを抱く爲めに腕を差し伸べなければならぬ。』危急の場合に立ち至つて、恰も外債がロシアに屆いた。イギリスとロシアとの親睦は表面純然たる政治上戰略上の動きであるかのやうに見え、勢力の均衡上、單だ鬪爭の姿勢を取つたものと思はれた。しかしロシアとの諒解がイギリスの財政上、有利な結果を準備するであらう知識が有力な第二の動機となり、リーヴエルストツク卿の制害關係と力とが疑ひもなく、イギリスの中流階級における傳統的意見の變更を助勢した。フランスの政治家達は表面的にドイツに對し萬一の場合、ロシア軍隊を使用したい意向があつた。彼等の二重同盟締結の際特に然うであつ

た。しかしイギリスはフランスの銀行がイギリス新聞に對する或特殊の利害に依る支配以上に、遙かに直接的に新聞を支配して居ることを痛感した。會社の設立、株式募集、委員の選定等に關する利便は、決して單純ではない。

イギリスはロシアにおいて結局利害關係複雜となり、特にロシア帝國支持に就いて關係膿厚と爲り、兩國遂に條約締結に進んだ。條約の特殊な目的はペルシヤに關連し、チベット、アフガニスタンとも關係があつた。就中アフガニスタンに就いては兩國の間に衝突の歷史があり、ロシアはアフガニスタンを海岸線へ押出さんとし、イギリスはこれに對してインドへの通路を保護せんとする關係があつた。しかもアフガニスタンは今や英露兩國の緩衝地帶として獨立國と爲り、チベットに就いては各國とも絶對に中立を保障し、アフガニスタンとチベットと何れも表面軍事上の默認裡におかれて居るが、中央アジアにおける背後の衝突は經濟的であり、ロシアは不凍港を求めて南方に進出せんとし、イギリスはインドを防衛するのに專心して居る。

ペルシヤとの條約中以上の外はこれ亦軍事的戰略的に決定せられたもので、經濟的利害は一層決定的に明瞭にせられて居る。ロシアは長い間ペルシヤの南において平和的貫通政束を推行し、これに對しイギリスはインドへの主要な海路としてペルシヤ灣を支配すべく、その權利を掌握した。そして他國のペルシヤ灣に海軍基地を設定することを許容せぬ旨力强く聲明した。從つて條約はペル

シヤを三部に分ち、北部はルシアの勢力範圍として、南部はイギリスの範圍として、中部は中立地帶として英露國の緩衝地帶と爲つて居る。

英露の關係變化し、英佛國の協商が改めて英佛露の三角協商と爲つた結果、モロツコにおける數年間は、イギリスの國際關係上、有力な部面として活動した。假りに協商國がどんな作用をして居るかを見れば

モロツコに間してドイツとフランスとの間に分割問題が惹起せられた際、イギリスは同盟國の爲めに早速功績の有無に拘らず、調停を行ひ、勢力均衡の信條『わが同盟國は正しいか惡いか』ソレを唯一の基準とした。しかしこの場合、ドイツに對する憎惡が、同盟國への誠實味を强化したことは疑はれない。實に近代資本主義および帝國主義の基本資料としてドイツの鐵、鋼の採掘は容易にイギリスの優越を蹴落した。ドイツは產業國民中に在つて一級國と爲り、到るところイギリスに挑戰して居り、經濟的競爭は政治上軍事上の拮抗を生し、勢ひ大砲が物を言うに先きだつて幾許の時間があるか、唯ソレが問題である。

イギリスは事實その競爭者がイギリスを十分打倒するに先きだつて問題を解決すべく、機會あるごとにこれを歡迎した。一、九〇五年にもさうであり、一、九一一年にもイギリスは挑戰をくり返した。そして戰爭が切迫して見えた。

一切の話は政治家と外交家に依つて曖昧模綾の裡に包容せられた。政治家や外交家の公衆に告ぐるところは單だ普通に思想を隱蔽し、相談を暗黑にするのみである。しかし大なる一事實が現はれ、正に英獨抗爭の初めであらうことを示して居た。從來の如く佛獨の抗爭を主としたものでなく、一、九一一年にはドイツとイギリスとが主役として立ち上つた。是れが一、九一四年世界的悲劇の發端であつたのである。

ペルシヤに就いてイギリスは初め南ペルシヤにおいて權勢を求めたのであつて、戰略的地盤を目標とした。イギリスはしかしながら同國における政治上の生活中に自から絡まることを强要した。ロシアとの同盟は別のことであつた。ペルシアにおけるロシアの要求支持は一、九〇七年成立した條約の報償で一、九〇四年の報償としては、モロツコにおけるフランスの要請に對する支持があつた。しかしこの後者の見方はペルシアにおけるイギリス自體の利益を保障もなく却下せんとした。中央ヨーロツパとの競爭增進し、イギリス、ドイツ間の關係一層緊張したからである。實際ペルシアの潛在國富が發見せられ、特に鑛物、石油等これまで全く觸れられなかつた國富が發見せられた。自然イギリス、ドイツはこれ等の財源發掘について專賣權を得べく熱望した。

もしそれバルカン方面に關してはボスニア危急の間、イギリスとフランスと孰れもその同盟國

の要求を支持し、サー・エドワード・グレーは問題決定の爲め、ヨーロッパ會議を提案した。精確に言へばドイツが同様のヨーロッパ會議を提案した頃早くモロッコの危機が惹起した事態を轉換させように云ふのが、グレー提案の目標であつた。しかもその頃協商國が會議を拒否したのに反し、今は則ちこの提案を見たわけであつた。國民は出來る時には出來るものを取り、出來ない時には會議でも開かうと云ふのであつた。

殆どこれと同時にボスニアの危機が突發し、トルコ國民主義者の革命が起り、支那においては現に同じ革命が進行中であつた。一、九〇〇年外國の帝國主義の侵入に對するこの以前の革命が拳匪の亂として知られた。而して彼等は利害關係ある聯合遠征軍によつて壓伏せられ、袁世凱はイギリスに模範を取つた制限君主政治を保留せんと努めた。しかも彼れは列國の財政援助を得べく列國に訴へた。當時ペキンにおけるイギリスの代表者は右袁世凱に對して國債提供の意何を强調した。しかし各國の意向同じからず、孫逸仙に指導せられた共和改革の一派は上海に商業會議所を有し、香港上海銀行共同して背後に有力なる後援者があつた。殊に香港上海銀行の内容は支那におけるイギリスの經濟的利害關係を有する者の團體から成り、青年支那の運動として經濟的ボイコットの意向があつた。即ち若し袁世凱の外債を援助又は許容するならば、ボイコットを斷行すると云ふのであつた。彼等は又外務省をして斯かる外債を成立せしむることを妨害し、遂に滿洲朝廷の倒壞と爲つ

た。外務省の外交官に對する勢力よりも、財務家や商業家が一層の勢權を揮ひ得た事實は外交政策における意思が如何に强力であつたかを示すものと解せなければならない。同じ權勢の表示はその當時北京におけるタイムス通信員によつて表明せられ、その後外債と鐵道の交渉が佛英團體に代つて、ドイツの手中に歸したと云ふ重要な成り行きは正しく以上の事實を表示したものと解すべきであつた。彼れの言に依れば右結果はイギリス政府の同情を遠のけ、又支那外交の難澁に就いて最早やイギリス政府の支援を望む必要がないと云ふのであつた。イギリスの利益と滿洲の利益によつて所有且つ支配せられ、イギリスの企業家は南滿洲會社において支配して居る。しかもこの會社は地主、電報、汽船、炭田および電氣事業を包容するまで擴大せられ、經濟的政治的獨裁者たる資本の大なる協同組織化して居た。しかしイギリスと日本とは支那の獨立と權威を保持すべく、彼等親しく莊嚴に誓約した。唯しかし到るところに同一政策の衝突矛盾があり、何處に首流が貫通するか、人民の運命を左右する主人として、先づ彼れの確立設定を求めざるを得ない。

その間世界を包括する戰雲は大きく大きく暗く暗く爲つた。種々の試みがその暗黑を散亂せしむべく行はれた。一、九一二年カイゼルは彼れの軍事的野心に反して平和的態度を執り、英獨關係の全問題を論議すべくベルリンに英内閣員を誘引した。そしてこの論議は十分の成果を擧げた。即ち英獨關係は彼等がこの世紀中、戰爭切迫の時機なのに似ず、未だ曾てないほどに友誼的であつた。

しかしこの交渉と讓歩と要するに犯罪者が自から報復の時間近づきつゝあるのを感じて、單だ懺悔の十一時間を過したと云ふのに過ぎない。共通の破滅に彼等を呑み下すべく、戰爭は既にその口を明けて居た。

彼等の犯した罪惡とその結果と總て殘留して居り、彼等の政策は種子を蒔いた。時到れば否應なく收穫せざるを得ないであらう。一、九一四年六月大戰爭勃發數日前エドワード・グレーはイギリス下院において、帝國主義の新政策を表明し、左の如く讃美の言を放つた。

私はイギリスの資本が世界の何處に何う來らんとするか、有効な政治上の目的もなく、しかもわれ等が出來るだけの助力を與へて、外國政府を信ずるに努め、鐵道の讓渡その他に關しても、イギリス側と同樣、合理的價値を認め、又利子を拂ふ等、最善の方法を盡すことが、われ等の義務と考ふる。

八、日本の膨脹

一

日本の封建改廢は唐突迅速に次ぎの舞臺を展開した。そして極めて短時日間における西歐諸國民

の勢力に對する經驗は、世界各國との交渉に反抗して、强ひて敬遠的防砦を守持することの無用を確信させた。しかし單だ無爲には過させなかつた。即ち自から有する勢力の秘密を學ぶべく決心させた。しかもその爲めに何等困難なく、日本は惹悲もなく現實主義の下にその經濟的社會的生活を模すべく邁進させられた。その結果、日本の一掃的改革が數年にして政治的社會的制度を變改し、西洋の物質上科學上の文明を熱心に適用した。斯くて日本自身ヨーロッパ化し、國際進行の仲間入りをした。一、八七一年軍事上の貴族であり、封建王族であつた大名等は自發的にその封建上の權利を放棄し、代償として新統治下における高級役人の地位を與へられた。戰士階級たるサムライも同じく各自の特權ある地位を棄て、從つて三つの根本的變革が可能に爲つた。（甲）政府が集中化中心化された爲めに、早速有効に用立つたこと（乙）民衆は封建の義務から解放せられ、小作人又は都會無產者と爲り、兵役が特權と爲つて、民衆全部の義務とも爲つた。そして教育制度が西歐から輸入せられた結果、自由主義歷史家ヘーズンが言つたやうに、義務兵役と教育制度と民衆を同種同質化せしめ、進歩と樂天と愛國との同一精神を浸透さした。

この大なる變革は日本の產業大發展の餘裕を與へ、一、八七二年初めて東京横濱間の鐵道が開通一、九〇〇年には既に三千マイルの鐵道が建設され、一、九〇九年には五千マイル、一、九一四年には六千マイルの鐵路開通を見るに至つた。そして船舶建造禁止法の廢止後十五年間に日本には百

三十八隻の船を擁し、一、九一四年までに日本の商船は世界の海洋を航行する二千七十二隻の汽船を含めて、大發達を示し、採鑛事業は一、〇九三年まで大發展未だしく、同年二十萬三千名の鑛夫が石炭、鐵、銅等合せて千三百萬トンを採掘するに止まり、殊に紡績事業は日本において一、八八〇年まで全然未知の狀態にあつたものが一、九一四年には約二百五十萬錘の機械操業が行はれ、二萬二千名の男工、九萬五千名の女工を使用し五四六百萬封度の年額成績を擧ぐるに至つた。織出方面はこれに對して不振を免かれず、一、八九〇年から一、九〇一年までに八フォードの製出を增進した。

總じて日本の對外貿易は素破らしき現象を表示し一、八七七年五百ポンドから一、八九〇年には一千四百萬ポンドに、一、九〇〇年には更に五千萬ポンドに、一、九一〇年には九千萬ポンド一、九一三年には遂に一億三千六百萬ポンド、即ち三十六年間に二十七倍增大したと云ふべきであり、從つて日本は現代の產業國民と爲つた。日本は西歐統治國の優越を肯定、驚異すべき現實を目の當りの事實として、資本主義の法則に從ひ、自から列强中の一列强として任ずる。實に一、八九五年から一、〇九五年迄に日本はその勢力と能力とに就いて、最後の爭ふべからざる證據を與へた。

一、八九四年日本と支那とは現に王國であるのに拘はらず、相互に朝鮮に對して宗主權を主張し論議の末遂に兩國の戰爭を起した。日本はその製產物の爲めの市場を要するので、自個の慾求を擴

大する上の利害關係を有する。而して日本は朝鮮から支那を驅逐し、滿洲を侵し、旅順を占有した。しかも旅順港こそは極東における最强地點であり、日本は同時に遼東半島を占領した。こゝにおいて流石に支那政府も平和解決に一致し、一、八九五年四月下ノ關條約に署名し、これに依つて旅順港と遼東半島を讓渡せしめ、臺灣その他を割取した。就中後者は日本に對して東南支那における活動の基地を與ふるものであり、尙通商上海運上重要な地點を占有した。日支兩國政府は又朝鮮の完全な獨立を確認し、事實日本をして自由手腕を揮ふ餘地を得せしめた。もしそれ償金問題に就いては支那政府は二百萬テール（約三千五百萬ポンド）を支拂ふと云ふのであつた。

しかし問題は無事には濟まなかつた。ロシアは日本をして戰利品の讓渡を餘儀なくせしむる目的を以て、ヨーロッパの干涉を結成した。干涉國の間で分獲を分配しようと云ふのであつた。しかもロシアの侵略政策は速かに中止すべきであることを示威し、日本自體の存在を脅かした。少くとも日本人はそれを恐怖した。日本は二途その一を選ばなければならない。彼等と支那分割の條件を定むるか、それともロシア敵國の一と同盟を結んで、相共にロシアを極東から驅逐し去るかである。日本が時を外さず一、九〇二年イギリスとの間に重大條約を締結したのは、この事情に當面した折のことであつた。

日英同盟表面の目的は、極東一般の平和と現狀維持とであつた。特に支那の領土並に朝鮮の同上

を全うすると共に、これ等各國の門戸開放が、同盟表面上の目的であつた。若し『高大にして偏狹な仲間』が第三國に對し戰爭を開始する場合、他は友誼的中立の態度を支持するであらう。但し第二敵國おいて干渉を敢てする場合、積極的にこれを援助するであらう。詳しく言へば、若しフランス又はドイツが日本に對して、ロシアに加擔する場合、イギリスは同盟國援助を辭せないと云ふのであつて、以上各關係に鑑み、この同盟は相當重要であつた。何となればアジアの一國民として、その世界勢力を承認せられたのは、この同盟成立が最初であつたからである。

日本は斯くて確信を以て再び支那におけるロシヤの眞意如何を問題視せずには居られなかつた。此結果に終つた前後六個月の交渉後、日本は斷じてロシアに對し開戰した。日本は戰鬪に就いて善く用意し、早急に自からロシアより優れてゐることを示威した。戰爭の最も目立つた點は、旅順口に對する爭奪戰であつた。そしてこの戰爭は旅順口が永續的重要地點であり、防衛地點としての價値を證明したものであつた。

一、九〇五年九月ポーツマス條約によつて、ロシアは日本に降服、旅順口を含む遼東半島の租借を讓り、同時に五百マイルの鐵道をも併せてこれを讓渡した。そして朝鮮における日本の利權が、優越的であることをも承認した。滿洲に就いては日露兩國孰れもこれを占領又は併合することを許さない。そして支那の支配下に回復せしめようと云ふのであつて、日本は樺太の南半部と賠償金五百萬

ポンドを獲た。

日本は一躍陸海軍國の第一級に列し、一、九〇八年までにフランスと、一、九〇七年ロシアと同盟を締結し、又イギリス、フランス、アメリカと盟約國と爲つた。そして一、九一〇年日本の朝鮮併合に對しては、列國中異議を挾むものなく、朝鮮は日本の穀倉として年々多量の米穀を生産して居り、見返り品として日本から多額の物資を贈られて居た。勢ひ一、九一三年朝鮮における輸入高の半分は日本から得られ、日本の資本家は漸次朝鮮を計畫の舞臺化し、一、九一三年には五個の日本銀行が朝鮮に設立せられ、鑛業計畫も著しく興隆した。日本の政策は侵略的且つ獨占的で、門戸開放は朝鮮に關する限り實際上の目的の爲めに閉鎖せられた。尙日本は旅順口占有に依つて大陸に確固たる地歩を占め、支那全土の獨立を脅威するに至つた。

一、九一四年世界大戰爭の勃發は極東にあつて日本自から曾て主張しなかつた機會を彼れに與へ日本はすかさず右機會を捉ふるに慧敏であつた。一、九一四年八月ドイツに對し宣戰すると、日本は支那におけるドイツの足場青島を占領し、又太平洋における同國の諸群島を占領した。但しこれは戰後支那に返還すると云ふのであつた。しかも支那の反對にも關せず、滿洲をも占領し了つた。この種の行動は單なる準備に過ぎなかつたが、西歐諸國は長期の鬪爭に從事し、日本はその間先手を打つて前記の占領を遂げ、自から利するところあるべき所存であらうことが明かになつた。その

爲の日本は對獨宣戰後五個月にして支那に對し有名な二十一個條を突き付けた。それは形式上外交的異例でなく、日支兩國政府は東方アジアの一般的平和の維持を希望し、將來の友好關係を強化し兩國民間に現存する善隣關係を保持すべく下記事項を遵奉するに一致した。これが冒頭の宣明であつて、支那は事實上全く日本の追從者と爲るべく、誘掖せられたのであつた。即ち二十一個條書中には『支那は日本およびドイツの間に以前ドイツの所有又は租借したところを以て、新たに設定することを許容する。但し第三國の租借は許さない』『第三國において滿洲又は東內蒙古において鐵道を敷設するか、或は鐵道敷設のため國債を發行するに就いては、豫め日本の同意を要する』『日本は支那にして若し政治、經濟又は軍事に關して前記各地域に顧問を希望するならば、交涉に應ずる』『支那は第三國に對して海岸所在の港灣嶋嶼の割讓を行はない』『支那は政治、經濟、軍事上の顧問として、有力な日本人を傭聘しない』『主要地における警察は、日支兩國の連絡下に管轄せらるべく』『支那は日本から一定の軍需品若くは同資財量を供與せられ、これに對して例へば五割乃至五割以上の報償を得べきである』『若し支那にして鑛業、鐵道建設、港灣修築等福建省において、外國資本の必要があるならば先づ日本においてその議に與かる筈である』と、主要の條項はこれであつた。支那側において以上穩健視せらるゝ提案を承服する場合、直ちに日本への完全服從であり、彼等は斷じて承服しなかつた。しかしそれにも拘らず、日本はさも承諾を得たものゝ如く振

舞ひ、更に日本は支那に對して利率八分の公債を强要せんとする氣勢があつた。日本の金政策は日本の爲めの支那と云ふ語に盡ると見なければならなかつた。

日本の勢力は世界戰爭中、國富の增進に從つて發展した。世界戰爭における日本自體の取得は著しくその地位を强化した間に、太平洋の警戒に就いては僅かばかりの資料を費消したのみであつた。日本は又割良くロシアに軍需品を供給し、その便宜を以て同國との間に重要なる秘密條約締結の機會を捉へた。右秘密條約は彼此兩國相互に極東における領土を保障するものであり、合衆國は一、九一五年五月これに反對した。支那における米國民の利益に反すると云ふのであつた。しかし兩國とも漸次摩擦を感知するに至り、特に日本は不測の事變に就いて用意を始めた。そしてその用意は陸軍の膨脹を制限し、海軍を編成するに就いては何等制限がなかつた。日本は又前線有利の地位に勢力を張り、太平洋島嶼の所有に依る要塞築造によつて、その野心成就を求めた。日本の軍國分子は尙戰爭の勃發はカリフオルニア、ハワイにおける日本興隆の信號であらうことを希望した。

その間日本の首腦部は日本群衆の中にアメリカに對する反感をそゝることの、極めて容易であることを看取した。現にアメリカは彼等の海岸から日本人を占め出し喰はせて居るではないか。特に不名譽な取扱ひを弄し、殊別的待遇を與へて、日本人の屈服を强いんとして居るのではないか。その議論は早速群衆の反響を喚起するのみならず、群衆の注意を事の眞實から混亂せしむる利益があ

ると云ふのであつた。明かに日本は他國において日本人の不名譽な取扱ひに就いて、不服を訴ふる論據を有せない。日本における外國人は多くの不利と不自由とを忍んで勞働して居り、日本人はウエブ法反對の爲めカリフオルニアにおいて土地の所有を禁ぜられ、日本は同國内居住の外國人に對して許容せぬ市民權をアメリカにおいて要求して居た。のみならず日本に在つては、全職業とも支那人朝鮮人と併せて封鎖せられて居た。

日本の人口に關しては確かにヨーロツパの或國より稠密でない。しかも知名な斯道の權威者すらワシントン會議において、左の如き言明を躊躇しなかつた。

一、九二一年における所謂アジアの人口低落は、文句以上の何者でもない。人口の低落は太平洋海岸に居住する人種間の軋轢上、大なる事實として嚴肅なる議論を排除すべきである。云々

同時にわれ等は日本産業の發展する限り、人口低落が問題化するが如きことのないものと想察せざるを得ない。現に快速なる人口增殖は今も繼續して居り、恐らく前記の議論を助勢して居る。

アメリカはカリフオルニアにおける日本人が、白人勞働者より少額の賃金を以て働きながら、尙且つ小作料を拂ひて貯金を蓄へ、やがて大農化し、自からカリフオルニアの良い土地を所有するに至るのを驚きながら見て居り、數年ならずして、洲内のアメリカ人口以上の人口を有する事態を驚いて居る。自然日本人に對して怨嗟の情を喚起するのも怪しむに當らない。これがブリティシ、コ

ロンビアにおいて軍事運動があり、白壕運動がある所以である。そしてこれ等の運動がイギリスの帝國運動を刺戟する重要なる情實である。

移民問題でさへも從つて直接その經濟事態を有する。しかし眞の日本アメリカ間の摩擦は、支那へ開放および莫大なる鑛産その他の財源統治以上の問題であり、それ等の問題は又直接イギリスに影響する問題である。世界戰爭以前イギリスは支那において最大の取引關係を有し、これ等の問題が勢力上特殊の形象を表示する。或時は源富豐かな戰略的に重大な楊子江溪谷に對する要求が提起せられた。この溪谷は甚大な富と言葉に盡せない經濟的發達の可能性を有して居り、同時にこれが占有に依つて、外國の勢力を南北双方からの敵對に誘ひ、支那全土に於ける支配勢力として法律秩序の回復を期することが出來る。イギリスのこの要望が長年月の間放置せられたであらうが、反對の方向において日本の政策が侵略的に、しかも獨占的性質の下に多くのイギリスの利益に反對して居る。

日本は戰爭中親獨の傾向を示し、日米間の不和な感情が延いてイギリスに對する嫌疑と敵意とを生じた。何ぜ日本はイギリス支援を止めないか。若し假りに日米の間戰爭が勃發するならば、イギリスはその中立的態度を持し、或は非同情的中立を持するかも知れない。

とも角も日本は單獨に太平洋問題に直面し、無援のまゝこれを解決せざるを得ない。日本は實に

孤立である。イギリスは次第に非同情的と爲りつゝあり、支那は敵對し、臺灣、朝鮮、滿洲におけるその統治は倚銃劍の上に休息して居り、日本に取つては何れも强化の資原と謂ふよりも弱味の種子である。かたかた日本の政策は太平洋に在つては全然準備を主とする政策である。そして政策は一見大に成功して居るかの如く見えた。少くとも紙上では有望らしく成功らしく見えた。しかしアメリカの大戰爭參加と共に、形勢も變化した。

アメリカは急速に陸軍國、海軍國として一級國の地位に躍進した。太平洋大艦隊が編成せられ、一、九一九年の根據地としてサンフランシスコを設定した。實に右大艦隊の編成はアメリカ西海岸に海軍史上新紀元を作るものであり、アメリカは決定的に海軍政策に乘りこんだ。事實その海軍こそアメリカをして忽ち世界一流の海軍國たらしむるものであつた。同じくパナマ運河問題が日本の思慮を眩惑した。運河の攻擊が假りに成功するとなれば、その結果は何うなるかである。しかし防禦工事や重砲や有勢な野戰工事、强力な潛艇や驅逐艦等、運河攻擊を不可能ならしむるであらうと云ふのであつた。

更らに太平洋諸嶋嶼に就いて言へば、ガム島の直に强大なる防禦が全面的に太平洋の狀勢を一變せしむべく、これに加ふるにフイリピン島の支配を繼續するにおいては、アメリカをして日本とその大海軍および大型巡洋艦を防衛せしむるに十分である。況んや驅逐艦、水雷等を用ひて、これを

補助せしむるにおいては日本を封鎖し、又海空兩方面から日本の產業中心を攻擊せしめ得ること必定である。即ちアメリカを對手に日本勝利の希望は、永遠に破棄せられたと言ふのも、相應に可能性は有り得る。

つまり日米間の戰爭が永びけば永びくほど、日本としてはその機會に遠ざかるわけであつて、兩國間に大なる相違があり、殊に日本は貧弱な國家で、その土地には山岳丘陵多く、農耕に不適當である。又今日の見地からすれば日本は鑛產物に乏しく、就中鐵材を得ること困難である。日本は習慣的にその骨折に依つて、この困難を克服し、遂に成功を獲得した。

鐵砂は日本の全地域に涉りて存在し、若し製錬の方法が發見せらるゝならば、日本は鋼鐵の欠乏に惱むことなからうこと明かであると長いこと推定せられ、一、九一九年九月以來遂に右企圖を開始、相當の成功を收め、經驗上實行計畫に關してこれ亦相當の成績を擧げた。

しかし日本は實際石炭がなく、南方地方は食糧自給も出來なければ本來の國富そのものに乏しい。即ち國民としての强大な鬪爭に對して、備具する所貧弱であつて、甚だ貧困な給與政策を以て最野心的國策を樹立したものと謂ふべきである。しかも當初は財源の統制に成功し、朝鮮、支那における思ひ遣りのない政策は、鐵、石炭、米に對する熱烈に又增進する慾求の觀點から、最も善く理解せらるゝ。しかし他の列國が深長に支那の門戸開放に興味があると云ふ事實は、日本をして極

11251

めて粗略に優秀者たる希望を懐かしめた。斯くてワシントン會議において、太平洋問題とその諸問題とが世界關係注目の中心となつた。帝國主義者の發展が既に大海軍の準備を喚起し、最初の世界戰爭後休戰三年にして第二世界戰爭の脅威が東方海上を掩うて、一層廣く一層深き影を投じた。

昭和二十三年三月五日印刷
昭和二十三年三月十日發行

二十世紀に於ける帝國主義の足跡
定價 三拾五圓

著者 坂口一郎
發行者 青柳基幸
印刷者 大隈憲次郎
印刷所 西日本印刷株式會社

發行所 東京都千代田區飯田町一ノ一二
福岡市下堅町七
叡智社
會員番號A二〇五〇一八

配給元 東京都文敎區神田淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

叡智社発行